

平成30年度  
全国学力・学習状況調査結果及び対策  
[平成30年4月調査]



平成30年10月  
鹿児島市教育委員会

## 目 次

I	平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果及び対策の見方……………	1
II	平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果（市の概要）について……………	2
III	平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果 正答率分布グラフ、課題、改善策 ……………	4
IV	学力調査分析（国語、算数・数学、理科）	
1	調査の結果から見える本市国語科教育の課題について……………	5
2	調査の結果から見える本市算数・数学科教育の課題について……………	12
3	調査の結果から見える本市理科教育の課題について……………	19
V	児童生徒及び学校に対する質問紙調査〈抜粋〉……………	24
VI	児童生徒への質問の結果（児童生徒質問紙）と 学校の取組（学校質問紙）との関係……………	34
VII	学力向上について……………	36

# I 平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果及び対策の見方

本調査の結果及び対策は、平成30年度全国学力・学習状況調査における鹿児島市に係るものです。については、各学校において、本冊子を活用し、本市全体の状況を把握するとともに、全市的な傾向との比較・分析などを通して自校の課題を明確にし、今後の個に応じたきめ細かな指導や問題解決的な学習活動など、教員の指導方法の工夫や児童生徒の学習状況の改善を図ってください。

## 1 本報告書の構成について

概要は、次のような構成になっています。

- I 平成30年度「全国学力・学習状況調査結果」及び対策の見方
- II 平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果（市の概要）について
- III 平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果正答率分布グラフ、課題、改善策
- IV 学力調査分析（国語、算数・数学、理科）
  - 1 調査の結果から見える本市国語科教育の課題について
  - 2 調査の結果から見える本市算数・数学科教育の課題について
  - 3 調査の結果から見える本市理科教育の課題について
- V 児童生徒及び学校に対する質問紙調査（抜粋）
- VI 児童生徒への質問の結果（児童生徒質問紙）と学校の取組（学校質問紙）との関係
- VII 学力向上について

## 2 本概要の活用について

### (1) 調査の目的や内容、各教科の平均通過率、質問紙調査の結果、今後の対策等について知りたいとき

「II 平成30年度『全国学力・学習状況調査』結果（市の概要）について」（2ページ）を御覧ください。

調査の目的や調査内容、各教科の平均正答率、質問紙調査結果において特徴的なもの等について説明してあります。

### (2) 本市の各教科の平均正答率別の割合や今後の改善策等について知りたいとき

「III 平成30年度『全国学力・学習状況調査』結果正答率分布グラフ、課題、改善策」（4ページ）を御覧ください。

平均正答率を5段階に分け、児童生徒の分布状況をグラフにしています。改善策等は、本市の学力向上施策や各教科及び全体で重点的に取り組むべき項目を示しています。

### (3) 本市の各教科の課題や改善のポイント等を知りたいとき

「IV 学力調査分析」（国語5ページ、算数・数学12ページ、理科19ページ）を御覧ください。

小・中学校における課題、全体を通して特に課題となった設問の分析と対策を説明しています。

改善のポイントについても、小中共同や小学校、中学校別に説明してあります。

また、問題別調査結果において、各問題の正答率、無解答率に貴校の状況を記入できる欄を設けてありますので、活用していただきたいと思えます。

### (4) 児童生徒の学習状況を知りたいとき

「V 児童生徒及び学校に対する質問紙調査〈抜粋〉」（24ページ）を御覧ください。

児童生徒に対する質問紙については24ページから、学校に対する質問紙については28ページから御覧ください。

本市独自に「家庭や社会への対応等に関すること」「自尊感情について」等のカテゴリーにまとめています。本市の特徴的なものを、関係付けられるカテゴリー別に示すことにより、本市の小中学校や児童生徒のよい点や課題等について捉えやすくしました。

また、本市と全国の「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」等を合算した数値で比較できるような表に、貴校の結果も記入できる欄を設けています。既に詳細な分析は各学校で進められているところですが、是非、貴校のよい点や課題等を記入していただき、貴校の状況を本市の特徴である1～70の項目において貴校の状況を確認してほしいと思えます。さらに、各カテゴリーごとに設けた□の枠内には、貴校の「分析・対策」を記入することにより、今後の取組を明確にもっていただきたいと思えます。

「VI 児童生徒への質問の結果（児童生徒質問紙）と学校の取組（学校質問紙）との関係」（34ページ）で、児童生徒への質問の結果と学校との取組の比較について示してあります。

### (5) 授業改善について知りたいとき

「VII 学力向上について」（36ページ）を御覧ください。

「1 かごんまよか授業「授業力アップ」をめざして」では、市教育委員会作成の「かごんまよか授業」を紹介しています。

「2 KEIネット（鹿児島市教育情報ネットワークシステム）」では、本市の教育情報ネットワークシステムで利用できるデジタルコンテンツを紹介しています。

「3 その他」では、前ページの情報に加え、インターネットでつながる外部の有益な情報についても紹介しています。

## II 平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果（市の概要）について

平成30年度の本市の結果は、以下のとおりです。  
本調査結果は、学力・学習状況の特定の一部であることを踏まえて御覧ください。

### 1 調査の概要

#### (1) 調査の目的

- ア 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ウ 上記のア、イの取組等を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### (2) 調査の実施学年・実施学校数・実施児童生徒数

学校種	実施学年	実施学校数			実施児童生徒数		
		本市	県(位)	全国(位)	本市	県(位)	全国(位)
小学校	6年生	76校	500校	19,386校	5,398人	14,276人	1,030,031人
中学校	3年生	39校	221校	9,597校	4,934人	13,613人	967,196人

#### (3) 調査の内容

- ア 教科に関する調査（調査対象：小学校6年生、中学校3年生）  
国語A・B、算数・数学A・B、理科  
（Aは「知識」、Bは「活用」に関する問題、理科はA・Bを一体的に出題）
- イ 質問紙調査（調査対象：小学校6年生、中学校3年生、小・中学校）  
生活習慣や学習環境等に関する調査

#### (4) 調査日

平成30年 4月17日（火）

## 2 教科の区分（A「知識」とB「活用」）に関する調査結果

（平均正答率・・・児童生徒の正答数の平均を設問数で割った値の百分率）

#### (1) 小学校（調査対象：6年生）の平均正答率（%）

教科 区分	国 語		算 数		理 科
	A「知識」	B「活用」	A「知識」	B「活用」	
本市	73	55	66	52	60
県	70	53	64	49	59
全国	71	55	64	52	60

#### (2) 中学校（調査対象：3年生）の平均正答率（%）

教科 区分	国 語		数 学		理 科
	A「知識」	B「活用」	A「知識」	B「活用」	
本市	77	60	67	48	66
県	75	58	64	45	65
全国	76	61	66	47	66

小6は、国語A、算数Aで全国を上回り、国語B、算数B、理科が同じである。  
中3は、国語A、数学A、数学Bで全国をやや上回り、理科が同じで、国語Bがやや下回っている。

## 3 質問紙調査結果（児童生徒及び学校に対する質問から特徴的なものを抜粋、単位は%）

#### (1) 児童生徒に対する質問 【質問数 小学校62問 中学校59問】

（質問文は一部省略）

地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか。 ※ 「参加したことがある」と回答した児童生徒の割合	小学校		中学校	
	本市	53.4	64.4	64.4
	県	55.0	61.3	61.3
	全国	36.1	51.8	51.8

家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。 ※ 「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の割合		小学校	中学校
	本市	64.9	50.5
	県	64.4	50.8
	全国	67.6	52.1

算数・数学、理科の勉強は好きですか。 ※ 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合	算 ・ 数	小学校	中学校	
		本市	70.9	55.5
		県	68.1	54.3
	全国	64.0	53.9	
	理 科	小学校	中学校	
		本市	82.7	66.5
県		83.9	65.3	
全国	83.5	62.9		

本市の児童生徒は、ボランティア活動に参加したことがあると回答した割合が、全国に比べ高い。  
自分で計画を立てて勉強していると回答した割合は、全国に比べ低い。  
小学校算数、中学校数学、中学校理科を好きと回答した割合は、全国に比べ高いが、小学校理科を好きと回答した割合は、全国に比べやや低い。

(2) 学校に対する質問 【質問数 小学校84問 中学校81問】(質問文は一部省略)

教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板等）等のICTを活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか。 ※ 「ほぼ毎日」「週1回以上」と回答した学校の割合		小学校	中学校
	本市	96.0	82.0
	県	84.4	82.4
	全国	73.0	74.8

児童生徒がコンピュータ等のICTを活用する学習活動を1クラス当たりどの程度行いましたか。 ※ 「週2回以上」「週1回以上」と回答した学校の割合		小学校	中学校
	本市	63.2	51.3
	県	52.0	43.9
	全国	36.6	33.5

習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか。 ※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合		小学校	中学校
	本市	98.7	94.9
	県	96.2	93.6
	全国	93.0	92.6

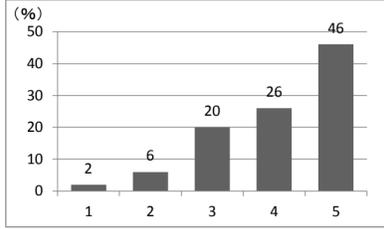
言語活動について、国語科だけでなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか。 ※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した学校の割合		小学校	中学校
	本市	96.0	87.2
	県	94.6	91.4
	全国	94.2	90.7

ICTを活用した授業や習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善や工夫に、積極的に取り組んでいると回答した学校の割合は、全国に比べ高い。  
言語活動について、国語科だけでなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいると回答した学校の割合は、小学校は全国に比べ高く、中学校は全国に比べ低い。

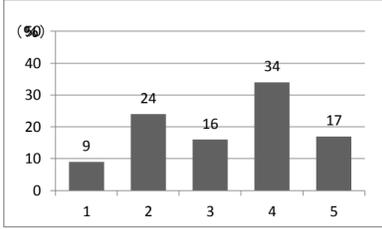
### Ⅲ 平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果正答率分布グラフ、課題、改善策

#### 【小学校】

##### 〔国語A〕

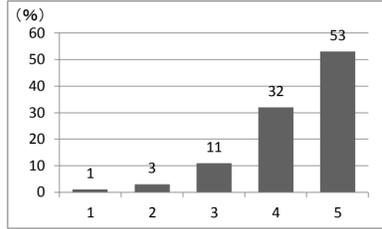


##### 〔国語B〕

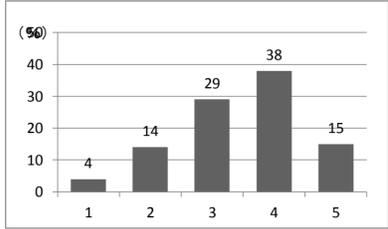


#### 【中学校】

##### 〔国語A〕



##### 〔国語B〕



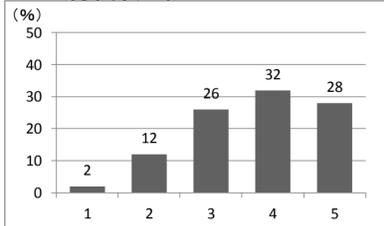
#### 〈課題〉

・5段階の分布状況については、全国とほぼ同じ状況が見られる。A問題の4、5段階の割合は72%、B問題については51%であることから、基礎・基本の定着状況に比べると活用する力は十分とは言えない。また、B問題においては、二極化の傾向が見られる。  
 ・目的に応じて必要な情報を捉えることや、話し合いの参加者として、質問の意図を捉えることに課題がある。

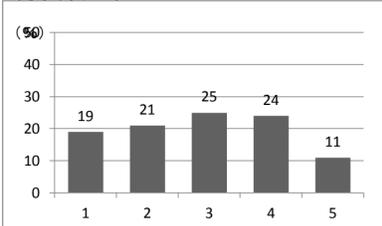
#### 〈課題〉

・5段階の分布状況については、全国とほぼ同じ状況が見られる。A問題の4、5段階の割合は85%、B問題については53%であることから、基礎・基本の定着状況に比べると活用する力は十分とは言えない。  
 ・段落が文章全体の中で果たす役割を捉え、内容の理解に役立てたり、話し合いの話題や方向性を捉えたり、文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることに課題がある。

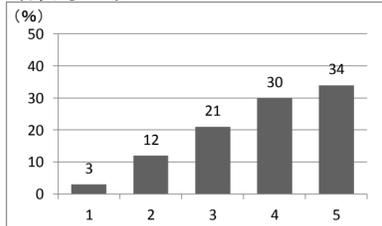
##### 〔算数A〕



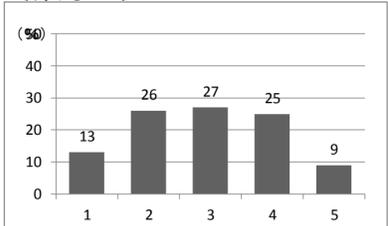
##### 〔算数B〕



##### 〔数学A〕



##### 〔数学B〕



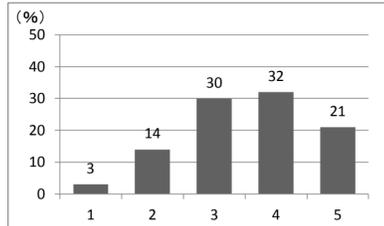
#### 〈課題〉

・5段階の分布状況については、全国とほぼ同じ状況が見られる。A問題の4、5段階の割合は60%、B問題については35%であることから、基礎・基本の定着状況に比べると活用する力は十分とは言えない。また、B問題においては、下位層が若干多い。  
 ・1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことや、規則性を見だし、変化や対応の関係を基に合理的、能率的に処理することに課題がある。

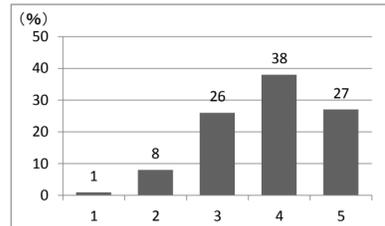
#### 〈課題〉

・5段階の分布状況については、全国とほぼ同じ状況が見られる。A問題の4、5段階の割合は64%、B問題については34%であることから、基礎・基本の定着状況に比べると活用する力は十分とは言えない。また、B問題においては、下位層が若干多い。  
 ・絶対値や一次関数の意味の理解や、付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することに課題がある。

#### 〔理科〕



#### 〔理科〕



#### 〈課題〉

・5段階の分布状況については、全国とほぼ同じ状況が見られる。「知識」に関する問題は全国を上回ったが、「活用」に関する問題は下回っており課題である。  
 ・複数の情報を関係付けながら、多面的に分析して考察することや、既習の内容や生活経験をものづくりや事物・現象の説明に適用することに課題が見られる。

#### 〈課題〉

・5段階の分布状況については、全国とほぼ同じ状況が見られるが、上位層がやや多い。また、「知識」に関する問題は全国を上回ったが、「活用」に関する問題は下回っており課題である。  
 ・要因を抽出して整理し、条件を制御して実験を計画することや、光の反射の幾何光学的な規則性などの科学的な知識や概念を身の回りの事象に活用することに課題が見られる。

#### 【改善策】

今後、本市の学力向上施策(『確かな学力』の育成)のうち、以下に示す事項について、重点として取り組んでいく。

- 諸学力検査結果分析を各学校へ情報提供し、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善や個に応じた指導の充実を図らせるなど、各学校でPDCAサイクルの充実がなされるよう見届けまでの指導を確実に実行。
- 「市学力向上プログラム」の実践校の支援や指導・助言、管理職研修会、市教科別研修会等を充実させ、「分かる・できる」授業づくりを通して教職員の指導力向上を図る。
- 管理職研修会、市教科別研修会等で、研究協力校等の取組例を紹介し、各学校で効果的な活用を促す。

また、以下の内容を各学校の学力向上策として、特に重点的に取り組むよう指導する。

〔小学校〕(国語科) ・ 目的に応じて、文章中や資料から必要な情報を見つけて、書き出したり、話し合ったりする活動の充実  
 ・ 課題意識をもって意見を発表したり、質問をしたりする話し合い活動の充実

(算数科) ・ 問題を解決する過程で、数量の関係を捉え、数量の関係を図や数直線などに表す活動の充実  
 ・ 規則性を見だし、条件に合う事柄について、適切に判断することができるようにする指導の充実

(理科) ・ 収集した複数の資料から事実と考えを明確にして情報を読み取り、要点を整理したり関係付けたりして分析する活動の充実  
 ・ 根拠のある予想や仮説を立てるために、既習の内容を想起させたり、互いの考えを検討し合ったりする活動の充実

〔中学校〕(国語科) ・ 段落が文章全体の中で果たす役割を捉えるために、段落相互の関係性を図式化したり、話し合ったりする活動の充実  
 ・ 課題意識をもって意見を発表したり、質問をしたりする話し合い活動の充実

(数学科) ・ 新たに条件を加えた際に、見いだした事柄の前提に当たる条件と、それによって説明される結論について検討し、それらを数学的に表現する活動の充実  
 ・ 数学用語の意味や計算の理解など基礎的・基本的な知識及び技能をしっかりと定着させるための指導の充実

(理科) ・ 見いだした問題に対して予想や仮説を立て、それを検証するために条件を制御した観察・実験を計画する活動の充実  
 ・ 日常生活や社会の特定の場面で、理科で学習した知識・技能を活用して考えたり、説明したりする活動の充実

※正答率分布グラフの各教科の段階は、以下のとおりです。

小 国語A 「1」 : 0~2問	「2」 : 3~4問	「3」 : 5~7問	「4」 : 8~9問	「5」 : 10~12問
小 国語B 「1」 : 0~1問	「2」 : 2~3問	「3」 : 4問	「4」 : 5~6問	「5」 : 7~8問
小 算数A 「1」 : 0~2問	「2」 : 3~5問	「3」 : 6~8問	「4」 : 9~11問	「5」 : 12~14問
小 算数B 「1」 : 0~2問	「2」 : 3~4問	「3」 : 5~6問	「4」 : 7~8問	「5」 : 9~10問
小 理科 「1」 : 0~3問	「2」 : 4~6問	「3」 : 7~9問	「4」 : 10~12問	「5」 : 13~16問
中 国語A 「1」 : 0~6問	「2」 : 7~12問	「3」 : 13~19問	「4」 : 20~25問	「5」 : 26~32問
中 国語B 「1」 : 0~1問	「2」 : 2~3問	「3」 : 4~5問	「4」 : 6~7問	「5」 : 8~9問
中 数学A 「1」 : 0~7問	「2」 : 8~14問	「3」 : 15~21問	「4」 : 22~28問	「5」 : 29~36問
中 数学B 「1」 : 0~2問	「2」 : 3~5問	「3」 : 6~8問	「4」 : 9~11問	「5」 : 12~14問
中 理科 「1」 : 0~5問	「2」 : 6~10問	「3」 : 11~16問	「4」 : 17~21問	「5」 : 22~27問

# IV 学力調査分析（国語、算数・数学、理科）

## 1 調査の結果から見える本市国語科教育の課題について

	【全国との比較】
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>話合いの参加者として、質問の意図を捉える。 <b>B問題1一【▲2.5】</b></li> <li>目的に応じて必要な情報を捉える。 <b>A問題3 【▲2.2】</b></li> <li>目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかく読む。 <b>B問題6二【▲1.0】</b></li> <li>※ 文の中における主語と述語の関係などに注意して、文を正しく書く。 <b>A問題5 【◎6.3】</b></li> <li>※ 目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く。 <b>B問題2二【◎3.5】</b></li> </ul>
中学校・小中共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>段落が文章全体の中で果たす役割を捉え、内容理解に役立てる。 <b>A問題5一【▲4.2】</b></li> <li>話合いの話題や方向を捉える。 <b>A問題6一【▲4.2】</b></li> <li>文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉える。 <b>B問題1一【▲2.8】</b></li> <li>※ 目的に応じて文の成分の順序や照応、構成を考えて適切な文を書く。 <b>A問題8四2【◎23.0】</b></li> </ul> <p>◎ 記述の問題においては、小、中ともに全国より無答率が少なく、正答率も6問中4問で全国を上回っている。</p>

(1) **国語科の調査結果**  
 小学校においては、A問題で全国を上回り、B問題は、全国と同じである。  
 中学校においては、A問題は全国をやや上回り、B問題は、やや下回っている。  
 平成二十九年度と比較すると、中学校B問題は全国比が下がり、小学校B問題と中学校A問題は上がった。  
 「話すこと・聞くこと」は小学校B問題以外は全国平均を下回ったが、「伝・国」においては小学校A問題、中学校A問題・B問題共に全国を上回った。  
**本市国語科の課題**  
 ・ 話合いの参加者として、質問の意図を捉えることなどに課題がある。  
 ・ 段落が文章全体の中で果たす役割を捉え、内容の理解に役立てることなどに課題がある。

項	小学校		中学校	
	A	B	A	B
本市正答率	<b>73</b>	<b>55</b>	<b>77</b>	<b>60</b>
全国正答率	71	55	76	61
全国比 (H29)	<b>+2</b> (+2)	<b>0</b> (-1)	<b>1</b> (0)	<b>-1</b> (+1)

### (3) 課題を示す特徴的な問題

#### 【小学校B問題1一】

《話合いの参加者として、質問の意図を捉える問題》

★木村 小池さんに質問があります。時代によって使われ方が変わった言葉は、「全然」以外にどのようなものがありますか。

- 「話し合いの様子の一部」の木村さんは、何のために質問をしたと考えられますか。最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。
- 発表の中で自分が聞きがしたことをもう一度聞くため。
- 相手の考えの中で最も伝えたいことをたずねるため。
- 相手の考えとその理由のつながりを明らかにするため。
- 具体的な例がほかにもあるかを確かめるため。

#### 【小学校A問題3】

《目的に応じて必要な情報を捉える問題》

【オムレツのページ】

オムレツを作ったあとの感想

「作り方」のとおりには卵を溶かすはぐしたのに、黄色いきれいなオムレツにならなかった。次は白いこが残りないようにしたいな。どくに気をつけたいのだから、今度はこうしたい。

（問い） 山本さんと川上さんは、オムレツを作ったあとの感想を、次の1から5までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましょう。

1 「材料」の分量を正確に読む。  
 2 文章全体の内容を必ず大きく見出しし読む。  
 3 「作り方」の中から必要な内容を探しながら読む。  
 4 絵と文章を結びつけながら読む。  
 5 「ポイント」に書かれた内容を音読して読む。

3 山本さんと川上さんは、「オムレツのページ」を読み、絵とオムレツを作ったあとの感想をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

ポイント

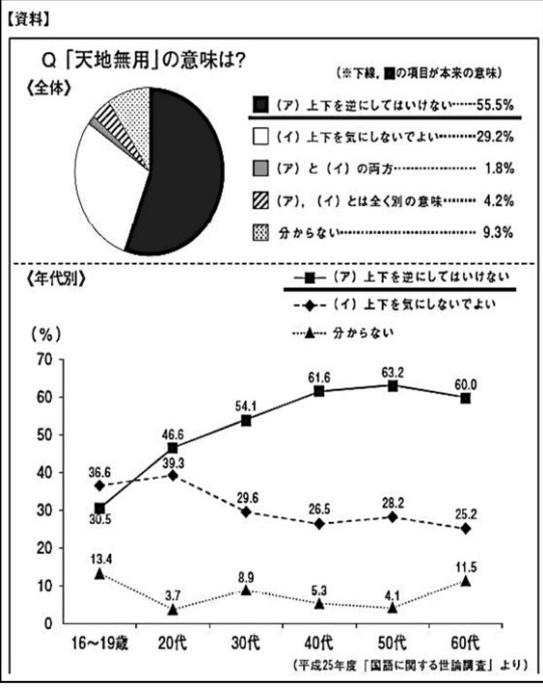
- 卵をよく溶かすためには立てて器を使うのがコツ。発音と自身をよく混ぜ、でき上がったときにむらなくなります。
- フライパンに卵を入れるときにチーズを入れると、チーズオムレツを作ることができます。

【本市正答率】71.7% (全国比▲2.2)

【オムレツを作ったあとの感想】を踏まえ、【オムレツのページ】をどのように読めばよいか、適切なものを選択するべきところを、感想を基に必要な情報を捉えることができない児童が28.3%いた。日頃から原因と結果など情報と情報との関係について意識して、両者を線でつないだり、ペアで確認し合ったりする必要がある。

【本市正答率】80.0% (全国比▲2.5)

具体的な例がほかにもあるかを確かめるために質問したと答えるべきところを、質問の意図が捉えられない児童が20.0%いた。日頃からペアやグループ活動の中で相互の意見を伝えたり、質問をしたりしながら話す力や聞く力を高めていく必要がある。



【本市正答率】43.1% (全国比▲2.8)

設問に答えるためには折れ線グラフから読み取るべきところを、円グラフから読み取って回答した生徒が42.7%いた。複数の資料を取捨選択しながら活用する学習に取り組む必要がある。その際、その資料を選んだ根拠を説明できるように指導する。

【中学校B問題1】

《グラフから分かることについて文章中で説明しているものとして適切なものを選択する問題》

1 話し合いの目的に沿った発言に続き、話の内容を短くまとめて書いている。

2 話し合いの目的から得た発言を取り上げ、全て話したとおりに書いている。

3 話し合いの目的に沿った発言から、あとで質問したい内容を選んで書いている。

4 話し合いの目的から得た発言を取り上げ、誰の発言が分かるように書いている。

「谷さんは、どのように『メモの』一語を書いていますか。次の1から4までのうち、最も適切なものを一つ選びなさい。」

(方法)	(理由)
・山下さん くじ引き	公平 時間が分からない
・横井さん グループごと	時間が分からない
・黒川さん 座りたい場所 重なら相談	
・平野さん 仲のよい人のグループ 場所はくじ引き	明るくなる
・木村さん 先生が決める	

【本市正答率】68.2% (全国比▲4.2)

【話し合いの一部】と【メモの一部】を見比べながら、メモの取り方の説明として適切なものを選択するべきところを、両者の関連性を読み取れずに誤答した生徒が31.8%いた。話し合い活動をする時にメモを取りながら、簡潔に要点をまとめる学習に取り組む必要がある。

【中学校A問題6】

《話し合いメモの取り方の説明として適切なものを選択する問題》

【小学校】

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して行う。

話し合いの進め方の検討や考えの形成、共有に関する指導事項を意識して話し合い活動を行う。

単元の最後で学習の成果を確認すると共に課題についても考えさせ、課題を見付けることが新たな学びにつながることを意識させる。

【中学校】

段落が文章全体の中で果たす役割を捉えるために、必要に応じて説明文の基本構造について巻末資料等で確認する。

学習課題を解決するために、個人―グループ―全体―個人の流れを意識した話し合い活動を行う。また、発表の際には、自分の意見が伝わらせるには、どのような資料や文章、話の組立てが有効なのかを常に意識させ、よい発表については、どのような工夫がなされていたのかを考えさせ、確認しながら実践的な力を育む。

(5) 改善のポイント・実践例

【小中共通】

- 児童生徒の学力の実態把握や過去の分析を行い、定着の不十分な問題等に意図的に取り組ませる授業の実践。
- 実生活の様々な場面を踏まえた言語活動を位置付ける授業の実践。
- 問題解決型の課題を設定し、解決に向けて話し合い、表現する学習活動の実践。

(4) 児童・生徒質問紙との関連

小・中学校共に、今年度は国語に関する質問項目がほぼなくなり、過年度との比較は難しくなった。これまでの質問と類似性がある「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫する活動について、全国との差が小学校は前年度より縮まり、中学校では広がる傾向が見られた。特に、中学校では差が開いており、早急な改善が必要である。

質問事項	小学校		中学校	
	本市	全国比	本市	全国比
(56) 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思えますか。	57.1 (58.7)	▲3.9 (▲4.7)	49.1 (50.9)	▲6.7 (▲5.3)

【( )内はH29年度の類似質問の結果】

(6) 問題別調査結果

※ 空欄に貴校のデータを書き込み、全国や本市と比較してください。

小学校 国語A

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点					正答率(%)			無解答率(%)		
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語理解・技能	本校	本市	全国	本校	本市	全国
1	相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて、事例などを挙げながら筋道を立てて話す	3・4 イ					○					89.9	90.8		0.1	0.1
2	自分の想像したことを物語に表現するために、文章全体の構成の効果を考える		5・6 イ					○				74.3	73.8		0.1	0.3
3	目的に応じて必要な情報を捉える			3・4 イ					○			71.7	73.9		0.1	0.2
4	登場人物の心情について、情景描写を基に捉える			5・6 エ					○			77.2	74.0		0.3	0.3
5	文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書く			3・4 (1) イ (キ)					○			41.8	35.5		2.4	3.9
6	日常生活で使われている慣用句の意味を理解し、使う			3・4 (1) ア (イ)					○			91.2	90.4		0.9	1.4
7	相手や場面に応じて適切に敬語を使う			5・6 (1) イ (ク)					○			56.5	56.0		1.6	2.7
8 ア	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う			5・6 (1) ウ (ア)					○			73.0	73.4		3.4	5.2
8 イ	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う			5・6 (1) ウ (ア)					○			81.9	82.2		4.3	6.3
8 ウ	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う			5・6 (1) ウ (ア)					○			85.5	82.2		4.6	6.6
8 エ	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う			5・6 (1) ウ (ア)					○			68.0	65.0		5.1	7.4
8 オ	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う			5・6 (1) ウ (ア)					○			60.6	51.4		5.5	7.7

小学校 国語B

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点					正答率(%)			無解答率(%)		
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語理解・技能	本校	本市	全国	本校	本市	全国
1 一	話合いの参加者として、質問の意図を捉える	5・6 オ					○					80.0	82.5		0.4	0.4
1 二	計画的に話し合うために、司会の役割について捉える	5・6 オ					○					76.9	77.5		0.6	0.6
1 三	話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる	5・6 エ	5・6 ウ			○	○	○				37.3	33.8		4.5	6.2
2 一	目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える		5・6 イ					○				57.8	57.6		2.0	1.7
2 二	目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く		5・6 ウ			○		○				16.8	13.5		1.7	2.7
2 三	推薦するためには、他のものと比較して書くことで、よさが伝わることを捉える		5・6 ウ					○				70.2	70.8		3.7	3.4
3 一	目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読む			5・6 イ					○			51.4	49.4		3.7	3.2
3 二	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む		5・6 ウ	5・6 ウ		○		○	○			51.3	52.3		10.0	11.9

中学校 国語A

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点					正答率(%)			無解答率(%)		
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語について の知識・技能	本校	本市	全国	本校	本市	全国
1 一	話の論理的な構成や展開などに注意して聞く	2 エ					○					86.2	87.4		0.1	0.1
2 一	書こうとする事柄のまとまりや順序を考えて文章を構成する		1 イ					○				87.3	89.5		0.3	0.3
2 二	伝えたい事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるように書く		2 ウ					○				65.4	64.0		3.0	3.3
3 一	文脈の中における語句の意味を理解する			1 ア					○			87.9	88.2		0.2	0.2
3 二	場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する			1 ウ					○			80.7	82.8		0.3	0.2
4 一	書いた文章を読み返し、伝えたい内容が十分に表されているかを検討する		1 エ					○				62.4	62.8		0.3	0.2
4 二	段落相互の関係に注意し、読みやすく分かりやすい文章にする		2 エ					○				77.3	79.4		0.5	0.3
5 一	段落が文章全体の中で果たす役割を捉え、内容の理解に役立てる			2 イ					○			72.1	76.3		0.8	0.5
5 二	文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える			1 イ					○			56.2	59.5		0.6	0.4
6 一	話合いの話題や方向を捉える	1 オ					○					68.2	72.4		0.7	0.5
6 二	話合いの話題や方向を捉えて的確に話す	1 オ					○					63.5	65.8		13.0	13.3
7 一	語句の辞書的な意味を踏まえて文脈上の意味を捉える				1 (1) イ (4)					○		85.3	87.3		0.7	0.6
7 二	接続詞の働きについて理解する				1 (1) イ (エ)					○		87.8	88.4		1.0	0.9
8 一 1	文脈に即して漢字を正しく書く				2 (1) ウ (4)					○		80.1	79.0		12.4	13.2
8 一 2					2 (1) ウ (4)					○		77.8	72.9		11.3	14.4
8 一 3					2 (1) ウ (4)					○		71.8	71.4		19.1	19.5

8 二 1				2 (1) ウ (7)					○		96.7	95.7		1.5	1.9
8 二 2	文脈に即して漢字を正しく 読む			2 (1) ウ (7)					○		98.4	97.8		0.8	0.9
8 二 3				2 (1) ウ (7)					○		98.6	98.1		0.9	1.1
8 三 ア				1 (1) イ (ウ)					○		78.7	77.7		0.8	0.8
8 三 イ				2 (1) イ (イ)					○		91.8	91.0		0.5	0.5
8 三 ウ				2 (1) イ (7)					○		89.0	88.0		0.7	0.6
8 三 エ	語句の意味を理解し、文脈 の中で適切に使う			1 (1) イ (ウ)					○		29.3	29.2		0.7	0.9
8 三 オ				1 (1) イ (ウ)					○		58.9	61.8		0.9	0.9
8 三 カ				1 (1) イ (ウ)					○		66.5	65.4		1.0	1.0
8 三 キ				1 (1) イ (エ)					○		94.5	95.2		1.1	1.0
8 四 1	慣用句の意味を理解する			3・4 (1) ア (イ)					○		94.5	94.7		0.8	0.8
8 四 2	目的に応じて文の成分の順 序や照応、構成を考えて適 切な文を書く			2 (1) イ (ウ)					○		45.3	22.3		5.4	6.5
8 五	行書の基礎的な書き方を理 解して書く			1 (2) イ					○		56.8	54.4		1.0	1.2
8 六 1	古典の文章と現代語訳とを 対応させて内容を捉える			2 (1) ア (イ)					○		91.6	91.1		4.2	5.1
8 六 2	歴史的仮名遣いを現代仮名 遣いに直して読む			1 (1) ア (7)					○		70.0	63.0		5.4	7.4
8 六 3	古典に表れたものの見方や 考え方を理解する			2 (1) ア (イ)					○		82.2	81.3		1.7	2.2

中学校 国語B

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域等				評価の観点					正答率(%)			無解答率(%)		
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	本校	本市	全国	本校	本市	全国
1一	文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉える			1イ				○				43.1	45.9		0.1	0.2
1二	文章の構成や展開について自分の考えをもつ			1エ				○				63.5	64.3		0.2	0.2
1三	目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く		2ウ	1イ		○	○	○				12.2	13.3		5.9	7.0
2一	質問の意図を捉える	1エ					○					85.3	86.8		0.2	0.2
2二	話の展開に注意して聞き、必要に応じて質問する	1エ				○	○					88.5	88.3		5.9	5.9
2三	全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話す	1イ					○					56.0	54.6		0.4	0.4
3一	場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する			1ウ				○				78.5	80.2		0.4	0.4
3二	登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てる			2イ				○				67.6	68.2		0.5	0.4
3三	相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く		1ウ	1イ	2(1)ア(イ)	○	○	○	○			49.6	49.2		10.6	12.4

## 2 調査の結果から見える本市算数・数学科教育の課題について

### (1) 算数・数学科の調査結果

小学校では、A問題が全国の平均正答率を上回り、B問題は同等であった。

中学校では、A問題B問題ともに、全国の平均正答率とやや上回った。

平成29年度と比較すると、全国比が算数Aは同じで、算数Bはやや下がり、数学A、Bはどちらもやや上がった。

項	算 数		数 学	
	A	B	A	B
本市正答率	66	52	67	48
全国正答率	64	52	66	47
全国比 (H29)	+2 (+2)	±0 (+1)	+1 (±0)	+1 (±0)

### (2) 本市算数・数学科の課題

- 問題場面を的確に捉え、数量の関係を図や数直線などに表すことなどに課題が見られた。
- 正の数と負の数の範囲で、絶対値の意味を理解することなどに課題が見られた。

	【全国との比較】
小学校・算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことができる。 A<sup>1</sup>(2)【▲3.0】</li> <li>十進位取り記数法で表された数の大小について理解している。 A<sup>3</sup>【▲1.8】</li> <li>折り紙の輪の色の規則性を解釈し、それを基に条件に合う色を判断することができる。 B<sup>5</sup>(2)【▲1.8】</li> </ul> ※ 円周率の意味について理解している。 A <sup>7</sup> (1)【+8.6】
中学校・数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>絶対値の意味を理解している。 A<sup>1</sup>(2)【▲9.4】</li> <li>指数を含む正の数と負の数の計算ができる。 A<sup>1</sup>(3)【▲3.9】</li> <li>付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することができる。 B<sup>4</sup>(3)【▲2.5】</li> </ul> ※ 見取図、投影図から空間図形を読み取ることができる。 A <sup>5</sup> (3)【+8.4】

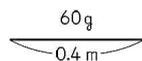
### (3) 課題を示す特徴的な問題

#### 【小学校6年 A問題<sup>1</sup>(2)】

針金0.4mと、0.4mの重さの60gと、1mの重さが、それぞれ数直線上のどこに当てはまるかを選ぶ問題

1

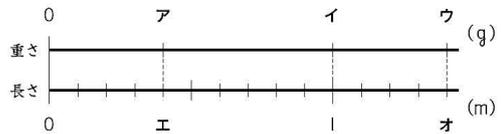
0.4mの重さが60gの針金があります。  
この針金について、次の問題に答えましょう。



(2) 針金1mの重さが何gになるかを考えます。

1mの重さを□gとして、針金の長さ<sup>と</sup>重さの関係を下の図に表します。  
針金0.4mの「0.4」、0.4mの重さ60gの「60」、1mの重さ□gの「□」のそれぞれの場所は、下の図のどこになりますか。

ア から オ までの中から、あてはまるものを1つずつ選んで、その記号を書きましょう。



【本市正答率】 63.7% [全国比▲3.0]

60と□が重さを表していることを捉えることはできているが、針金の長さ<sup>と</sup>重さの0.4と60、1と□を対応させることに課題が見られる。

#### 【小学校6年 B問題<sup>5</sup>(2)】

4色を順に繰り返してつなげ、輪かざり1本を作ったときの、30個目の折り紙の輪の色を選ぶ問題

もらった折り紙は、赤、青、黄、緑の4色が、それぞれ同じ枚数ずつありました。

さくらさんは、折り紙の輪を、図2のように、赤、青、黄、緑の順にくり返してつなげ、輪かざり1本を作ってみました。

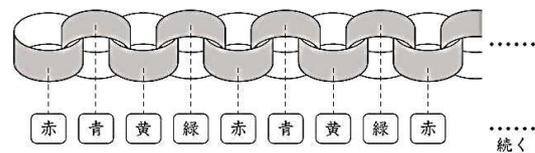


図2

(2) 上の図2のように、1個目の折り紙の輪の色を赤にして、輪かざり1本を作ったとき、30個目の折り紙の輪の色は何色ですか。

下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 赤
- 2 青
- 3 黄
- 4 緑

【本市正答率】 64.7% [全国比▲1.8]

誤答として「黄」と解答した割合が11.9%と一番高い。図2のように「赤、青、黄、緑、赤、青、黄、緑、赤」の九つの折り紙の輪が一つのまとまりとして繰り返されると誤って捉え、30個の折り紙の輪の色は「黄」と判断している。事象を観察して、規則性を見いだすことに課題がある。

【中学校3年 A問題1】(2)

絶対値が6である数を書く問題

(2) 絶対値が6である数をすべて書きなさい。

【本市正答率】 59.6% [全国比▲9.4%]

数直線上における原点からの距離が絶対値であることの理解に課題がある。

【中学校3年 B問題4】(3)

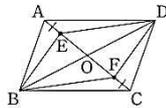
平行四辺形ABCDを正方形ABCDに変えたときの四角形EBFDがどのような四角形になるかを説明する問題

4 優花さんは、次の問題を解きました。

問題

右の図のように、平行四辺形ABCDの対角線の交点をOとし、線分OA、OC上に、 $AE = CF$ となる点E、Fをそれぞれとります。

このとき、四角形EBFDは平行四辺形になることを証明しなさい。



(3) 前ページの問題では、優花さんの証明から「四角形ABCDが平行四辺形ならば、四角形EBFDは平行四辺形である。」ことがわかりました。

問題の平行四辺形ABCDを正方形に変えると、四角形EBFDは平行四辺形の特別な形になります。四角形ABCDが正方形ならば、四角形EBFDはどんな四角形になりますか。「～ならば、……になる。」という形で書きなさい。

【本市正答率】 39.8% [全国比▲2.5%]

誤答として、仮定の部分はできているが、結論で成り立たないことを解答した割合が23.6%と一番高い。また、無回答率も24.6%と高い。付加した条件の下で、見いだした事柄を数学的に表現することに課題がある。

(4) 児童・生徒質問紙との関連

【児童・生徒質問紙の結果 (%)】

(32) 算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。

(33) 算数・数学の授業で学習したことは、社会に出たときに役に立つと思いますか。

(35) 算数・数学の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけ(根拠)を理解するようにしていますか。

	番号	本市	全国	全国比 (H29)
算数	(32)	66.7	64.4	+2.3 (+0.8)
	(33)	89.2	90.3	▲1.1 (▲0.6)
	(35)	81.0	80.4	+0.6 (+1.2)
数学	(32)	36.7	38.7	▲2.0 (▲1.1)
	(33)	75.6	72.9	+2.7 (+3.9)
	(35)	68.2	70.4	▲2.2 (+0.5)

(本市児童・生徒の「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の割合)

「生活の中での活用」について、小学校は全国2.3ポイント上回ったが、これは昨年度より1.5ポイント高い。中学校は全国を2.0ポイント下回ったが、これは昨年度より0.9ポイント低い。中学校は低くなった傾向が見られる。

「社会での有用性」について、小学校は全国を1.1ポイント下回ったが、これは昨年度より0.5ポイント低い。中学校は、全国を2.7ポイント上回ったが、これは昨年度より1.2ポイント低い。小中ともに低くなった傾向がみられる。

「公式やきまりの根拠の理解」について、小学校は全国を0.6ポイント上回ったが、これは昨年度より0.6ポイント低い。中学校は、全国を2.2ポイント下回ったが、これは昨年度より2.7ポイント低い。小中ともに低くなった傾向が見られる。

(5) 授業改善のポイント

ア 算数・数学共通

- 問題解決的な学習を単元に位置付け、解決の見通しをもたせ、自分で考え、その考えを周りに説明させる活動を重視し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。
- 数や式に関する指導では、数量の関係を図や数直線に表したり、誤った考えについて考察し、間違いの根拠を説明させたりする中で、原理・法則に基づいた理解が深まるようにする。
- 図形にある特徴や性質等については、作図や観察等の活動を重視するとともに、話し合い活動において、根拠をもって説明できるようにする。

イ 算数

- 問題を解決する過程で、数量の関係を捉え、数量の関係を図や数直線などに表す活動を位置付け、計算の意味の理解を基に演算決定をすることができるようにすることが大切である。
- 日常生活の問題の解決のために、事象から規則性を見だし、変化や対応の関係を基に、合理的、能率的に処理し、条件に合う事柄について適切に判断することができるようにすることが大切である。

ウ 数学

- 新たに条件を加えた際に、見いだした事柄の前提に当たる条件と、それによって説明される結論について検討し、それらを数学的に表現する活動を充実することが大切である。
- 絶対値などの数学用語の意味や指数を含む計算の理解など基礎的・基本的な事柄をしっかりと定着させるために繰り返し扱うことが大切である。

(6) 問題別調査結果

※ 空欄に貴校のデータを書き込み、全国や本市と比較してください。

小学校 算数A

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				正答率(%)			無解答率(%)			
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	態度	算数への関心・意欲	数学的な考え方	技能	数量や図形についての知識・理解	数量や図形についての	本校	本市	全国	本校	本市
1 (1)	除法で表すことができる二つの数量の関係を理解している	4A (3)イ 5A (3)			5D (1) ア					○		63.7	62.9		1.5	1.7
1 (2)	1に当たる大きさを求める問題場面における数量の関係を理解し、数直線上に表すことができる	5A (3) ア							○			63.7	66.7		1.9	2.4
1 (3)	1に当たる大きさを求める問題では、除数が小数である場合でも除法を用いることを理解している	5A (3) ア			5D (1) ア					○		66.3	65.3		1.7	2.2
2	小数の除法の意味について理解している	3A(4) ア 4A(3) イ 5A(3) ア								○		40.0	39.9		0.6	1.0
3	十進位取り記数法で表された数の大小について理解している	2A (1) イ								○		74.6	76.4		0.9	1.3
4 (1)	異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解している		5B (4) ア							○		90.7	87.8		0.4	0.6
4 (2)	単位量当たりの大きさを求める除法の式と商の意味を理解している		5B (4) ア							○		56.9	50.1		0.6	1.0
5 (1)	180°の角の大きさを理解している		4B (2) アイ							○		95.7	94.4		0.8	1.1
5 (2)	180°や360°を基に分度器を用いて、180°よりも大きい角の大きさを求めることができる		4B (2) アイ						○			60.8	58.5		1.1	1.5
6	示された表現方法を基に、空間の中にあるものの位置を表現することができる			4C (3)					○			75.9	73.5		1.9	3.3
7 (1)	円周率の意味について理解している			3C (1)ウ 5C (1)エ						○		50.2	41.6		2.4	3.2
7 (2)	直径の長さや円周の長さの関係について理解している			3C (1)ウ 5C (1)エ	5D (1) ア					○		61.9	55.6		2.7	3.6
8	百分率を求めることができる				5D (3)				○			58.2	52.9		3.7	4.6
9	折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることができる				4D (1)ア 4D (4)イ				○			65.9	63.6		5.8	7.2

小学校 算数B

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				正答率(%)			無解答率(%)		
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	欲算数への関心・意	算数的な考え方	の数量や図形について	の数量や図形について	本校	本市	全国	本校	本市	全国
1 (1)	合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見いだすことができる			2C(1) イ 3C(1) ア 4C(1) イ 5C(1) アイウ				○		73.9	71.7		0.2	0.3	
1 (2)	図形の構成要素や性質を基に、集まった角の大きさの和が360°になっていることを記述できる		4B (2) アイ	3C(1) ア 4C(1) イ 5C(1) アイウ			○		52.8	48.2		10.2	14.4		
2 (1)	示された情報を解釈し、条件に合う時間を求めることができる	1A (2)ア 2A (2)ア	3B (3)イ	2D (1)			○		69.0	70.5		1.4	1.5		
2 (2)	示された考え方を解釈し、ほかの数値の場合を表に整理し、条件に合う時間を判断することができる	3A (2)イ 3A (3)イ	3B (3) アイ	3D (3)			○		47.7	47.9		1.5	1.6		
3 (1)	メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できる			3D (3)ア			○		20.5	20.7		14.4	18.0		
3 (2)	棒グラフと帯グラフから読み取ることができることを、適切に判断することができる			3D (3)ア 5D (4)			○		22.3	23.9		0.9	1.1		
4 (1)	示された考え方を解釈し、条件を変更して数量の関係を考察し、分配法則の式に表現することができる	2A(1) エ 2A(3) ウ 3A(3) ウ		4D (2)ア 4D (3)ア			○		65.2	62.7		4.4	6.2		
4 (2)	示された考え方を解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、表現方法を適用して記述できる	2A(2) ア 2A(3) アウ 4A(3) イ					○		58.3	59.5		10.1	11.3		
5 (1)	折り紙の枚数が100枚あれば足りる理由を、示された数量を関連付け根拠を明確にして記述できる	2A(3) ア 3A(3) イ 3A(4) ア 4A(3) イ	2B (1)ア				○		44.5	43.2		14.5	16.6		
5 (2)	折り紙の輪の色の規則性を解釈し、それを基に条件に合う色を判断することができる	1A(1) イ 2A(1) ア 3A(4) ア 4A(3) イ 5A(1) イ					○		64.7	66.5		8.7	8.3		

中学校 数学A

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				正答率(%)			無解答率(%)		
		数と式	図形	関数	資料の活用	態度	数学への関心・意欲・	数学的な見方や考え	数学的な技能	数量や図形などについて知識・理解	本校	本市	全国	本校	本市
1 (1)	数直線上に示された負の整数を読み取ることができる	1(1) ア							○		94.8	94.6		0.1	0.4
1 (2)	絶対値の意味を理解している	1(1) ア							○		59.6	69.0		11.1	7.3
1 (3)	指数を含む正の数と負の数の計算ができる	1(1) ウ							○		65.0	68.9		0.6	1.0
1 (4)	ある基準に対して反対の方向や性質をもつ数量が正の数と負の数で表されることを理解している	1(1) 7,エ							○		52.5	54.2		0.1	0.1
2 (1)	数量の大小関係を不等式に表すことができる	1(2) エ							○		46.7	41.5		6.3	8.5
2 (2)	単項式どうしの除法の計算ができる	2(1) ア							○		92.0	91.0		1.9	2.4
2 (3)	文字式に数を代入して式の値を求めることができる	1(2) エ							○		79.5	78.5		4.5	4.8
2 (4)	具体的な場面で関係を表す式を、等式の性質を用いて、目的に応じて変形することができる	2(1) ウ							○		53.6	48.2		13.5	15.3
3 (1)	方程式を解く場面における等式の性質の使い方について理解している	1(3) イ							○		63.2	64.0		0.7	0.6
3 (2)	簡単な比例式を解くことができる	1(3) ウ							○		90.1	87.8		4.2	5.0
3 (3)	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	2(2) ウ							○		78.6	80.0		4.5	4.6
3 (4)	着目する必要がある数量を見だし、その数量に着目し、連立二元一次方程式をつくることことができる	2(2) ウ							○		77.1	75.2		0.5	0.6
4 (1)	ひし形は、線対称な図形であり、点対称な図形でもあることを理解している		小6 (1) イ						○*		67.2	67.1		0.2	0.3
4 (2)	折り目の線の作図と角の二等分線の関係を理解している	1(1) ア							○		53.4	54.9		0.6	0.8
4 (3)	回転移動した図形をかくことができる	1(1) イ							○		65.4	66.1		4.5	4.4
5 (1)	空間における平面と直線との位置関係(面と辺が平行であること)を理解している	1(2) ア							○		76.5	74.3		1.1	1.4

5 (2)	半円を、その直径を軸として回転させると、球が構成されることを理解している		1(2) イ						○		84.2	82.4		2.3	2.9
5 (3)	見取図、投影図から空間図形を読み取ることができる		1(2) イ						○		92.1	83.7		0.2	0.3
5 (4)	四角錐の体積は、それと底面が合同で高さが等しい四角柱の体積の1/3であることを理解している		1(2) ウ						○		57.9	57.6		0.5	0.5
6 (1)	三角形の外角とそれと隣り合わない2つの内角の和の関係を理解している		2(1) ア						○		69.1	71.4		0.3	0.4
6 (2)	多角形の内角の和の性質を理解している		2(1) イ						○		77.8	75.7		0.4	0.4
7 (1)	2つの三角形が合同であるために必要な辺や角の相等関係について理解している		2(2) ア						○		70.3	72.0		0.6	0.5
7 (2)	長方形やひし形が平行四辺形の特別な形であることを理解している		2(2) ウ						○		80.7	78.2		0.5	0.5
8	証明の必要性和意味を理解している		2(2) イ						○		46.7	45.5		0.7	0.6
9 (1)	比例 $y=ax$ における比例定数 $a$ の意味を理解している		1(1) イ						○		64.0	65.5		1.5	1.2
9 (2)	与えられた比例のグラフから、 $x$ の変域に対応する $y$ の変域を求めることができる		1(1) エ						○		57.1	55.0		11.8	13.0
9 (3)	反比例について、グラフと表を関連付けて理解している		1(1) エ						○		51.8	52.8		1.8	1.4
10	座標平面上に点の位置を示すことができる		1(1) ウ						○		68.3	69.9		3.3	2.9
11 (1)	一次関数 $y=ax+b$ について、 $x$ の値の増加に伴う $y$ の増加量を求めることができる		2(1) イ						○		44.5	45.3		14.8	14.8
11 (2)	一次関数 $y=ax+b$ について、 $a$ と $b$ の値とグラフの特徴を関連付けて理解している		2(1) イ						○		59.7	56.3		1.2	0.9
12	一次関数の意味を理解している		2(1) ア						○		33.4	36.4		1.1	1.0
13	連立二元一次方程式の解を座標とする点は、座標平面上的2直線の交点であることを理解している		2(1) ウ						○		60.6	62.7		2.3	1.9
14 (1)	最頻値は、資料の中で最も多く出てくる値であることを理解している		1(1) ア						○		73.0	68.4		1.8	1.4
14 (2)	与えられた資料から中央値を求めることができる		1(1) ア						○		79.1	74.0		4.3	4.6
15 (1)	多数回の試行の結果から得られる確率の意味を理解している		2(1) ア						○		41.5	40.2		2.1	1.8
15 (2)	表などを利用して、確率を求めることができる		2(1) ア						○		73.6	71.3		9.4	9.7

中学校 数学B

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点				正答率(%)			無解答率(%)		
		数と式	図形	関数	資料の活用	態度	数学への関心・意欲・	数学的な見方や考え	数学的な技能	数量や図形などについて の知識・理解	本校	本市	全国	本校	本市
1 (1)	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる				小5 数量 (3) 1(1) イ				○*		60.3	55.7		8.6	11.1
1 (2)	与えられた情報を分類整理し、不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉えることができる				2(1) 7,イ				○		44.9	43.9		5.5	7.0
1 (3)	不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することができる				2(1) イ				○		38.6	36.2		21.6	24.9
2 (1)	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	1(1) ウ							○		91.2	89.5		3.3	4.4
2 (2)	事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することができる	2(1) イ,ウ							○		38.0	37.5		24.2	25.0
2 (3)	3つの計算の順番を入れ替えたときの計算結果を数学的に表現することができる	2(1) イ,ウ							○		68.2	68.3		1.1	1.1
3 (1)	事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを事象に即して解釈することができる			2(1) イ,エ					○		68.7	67.6		0.3	0.5
3 (2)	グラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈することができる			2(1) イ,エ					○		78.4	77.7		5.6	6.9
3 (3)	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる			2(1) イ,エ					○		13.6	13.2		35.0	33.4
4 (1)	証明を振り返り、証明した事柄を基にして、新たな性質を見いだすことができる		2(2) ウ						○		53.6	55.4		0.7	0.7
4 (2)	発展的に考え、条件を変えた場合について、証明の一部を書き直すことができる		2(2) イ,ウ						○		40.9	42.4		6.2	6.2
4 (3)	付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することができる		2(2) ウ						○		39.8	42.3		24.6	24.6
5 (1)	与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる				小5 数量 (3)				○*		21.2	16.0		22.2	24.1
5 (2)	里奈さんの計算を解釈し、数学的な表現を用いて説明することができる	2(1) イ							○		10.0	10.4		7.1	6.6

### 3 調査の結果から見える本市理科教育の課題について

#### (1) 理科の調査結果

小学校、中学校のどちらも、全国の平均正答率と同じであった。

平成27年度と比較すると、全国比が小学校が下がり、中学校はやや下がった。

	小学校	中学校
<b>本市正答率</b>	<b>60</b>	<b>66</b>
全国正答率	60	66
<b>全国比</b>	<b>±0</b>	<b>±0</b>
(H27)	(+4.8)	(+0.7)

#### (2) 本市理科の課題

- ・ 仮説を検証するために条件を整えて実験を計画したり、結果や資料を関係付けながら考察したりすることに課題が見られた。
- ・ 観察・実験を通して見いだした規則性を他の事物・現象の説明やものづくりに活用することに課題が見られた。

【全国との比較】	
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上流側の天気と下流側の川の水位の関係性を考察し、選ぶ。 <b>2</b> (4) 【▲4.0】</li> <li>・ 太陽の1日の位置の変化を踏まえて光電池の置き方を選ぶ。 <b>3</b> (4) 【▲3.7】</li> <li>・ 食塩を水に溶かしたときの全体の重さを選ぶ。 <b>4</b> (3) 【▲4.3】</li> <li>※ 「関節と関節のつなぎ目」の名称である「関節」を書く。 <b>1</b> (3) 【+6.4】</li> <li>※ 「土や石を積もらせる」働きを「堆積」ということを選ぶ。 <b>2</b> (1) 【+8.6】</li> </ul>
中学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 板に反射して見える像に対して投影する像を選ぶ。 <b>1</b> (1) 【▲2.6】</li> <li>・ 刺激と反応の関係について調べる実験方法を選ぶ。 <b>5</b> (2) 【▲2.4】</li> <li>・ 植物を入れた容器の中の湿度が高くなる原因を記述する。 <b>9</b> (2) 【▲6.0】</li> <li>※ 酸素が不足しているときの化学変化を分子モデルで表す。 <b>4</b> (3) 【+6.0】</li> <li>※ 感覚器官が受けた刺激が脳に伝わる経路について記述する。 <b>5</b> (1) 【+6.3】</li> </ul>

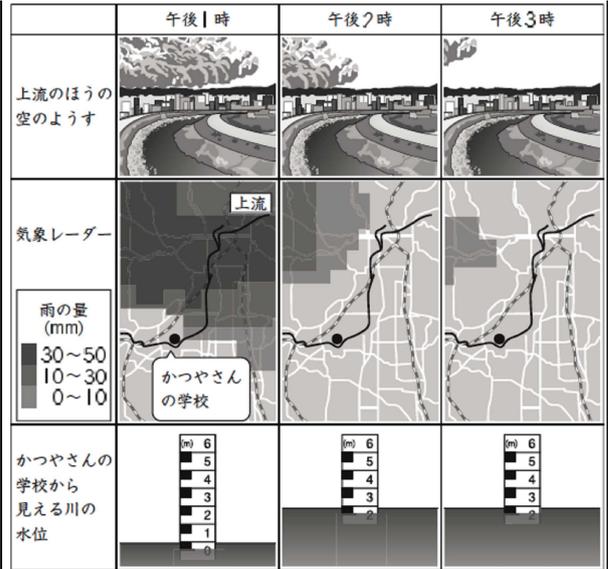
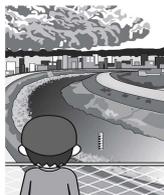
#### (3) 課題を示す特徴的な問題

##### 【小学校6年2(4)】

より妥当な考えをつくり出すために、複数の情報を関係付けながら、分析して考察できるかどうかをみる問題

かつやさんは、学校の屋上で空を観察しました。近くを流れる川の上流のほうに大雨を降らすような大きな雲があることに気づき、このあとの川の水位(水面の高さ)がどのようになるかを考えることにしました。

下の表は、かつやさんの学校から見える川の上流のほうの空を見たようすと、雨の降っているところを示す気象レーダー、川の水位を表したものです。



(4) 前のページの表から、かつやさんの学校から見える川の水位についてどのようなことがいえますか。下の1から4までの中から2つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 上流で雨が降り始めると同時に、水位は高くなる。
- 2 上流で雨が降って1~2時間たってから、水位は高くなる。
- 3 上流で雨がやんでも、水位は1~2時間では変わらない。
- 4 上流で雨がやむと同時に、水位は元にもどる。

【本市正答率】55.8% [全国比▲4.0]

上流側の天気と下流側の川の水位の関係を見いだすために、上流の雲の様子や気象レーダー、川の水位といった複数の情報を関係付けながら考察することに課題がある。また、上流側の降雨と下流側の水位の変化の時間差に関する理解に課題がある。

##### 【小学校6年B問題4(3)】

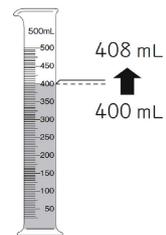
物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用できるかどうかをみる問題

ゆかりさんは、400 mLの水を用意して、12gの食塩をとかすことにしました。



あれ? 400 mLの水に食塩を12gとかしたら、できた食塩水は400 mLより多くなるのではないかな?

そこで、できた食塩水の量をメスシリンダーではかってみると、408 mLになっていました。



〈中略〉

(3) このときにできた食塩水の重さはどうなっていますか。下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 400g になる。
- 2 408g になる。
- 3 412g になる。
- 4 420g になる。

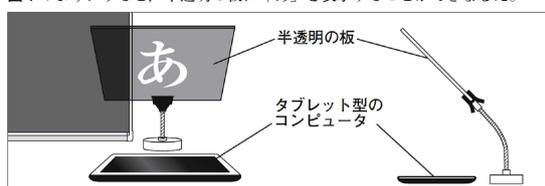
【本市正答率】 38.4% [全国比▲4.3]

物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを適用して考察することに課題がある。また、物を水に溶かしたときの体積の増加に関する理解や、問題文を読み、必要な情報に着目することに課題がある。

### 【中学校3年問題1】(1)

光の反射の幾何光学的な規則性についての知識・技能を活用できるかどうかを見る問題

生徒：図1のようにすると、半透明の板に「あ」を表示することができました。



(1) 図1のように「あ」を半透明な板に表示したとき、タブレット型のコンピュータの画面として適切なものを、下のアからエまでのの中から1つ選びなさい。

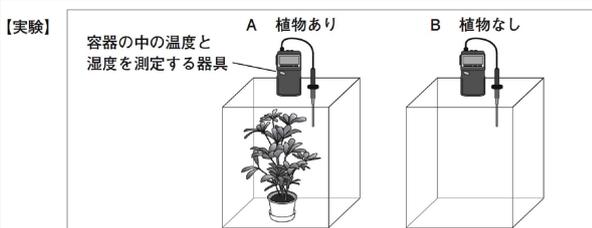


【本市正答率】 59.1% [全国比▲2.6]

日常生活における平面鏡に映った像の見え方や、光の反射の幾何光学的な規則性についての知識・技能を活用することに課題がある。

### 【中学校3年問題9】(2)

植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できるかどうかをみる問題



【新たな疑問】

水蒸気が植物から出るだけで、湿度が37%から88%に上がるのだろうか。

(2) 健一さんは【新たな疑問】をもち、下線部以外の原因を考えました。考えられる原因を1つ書きなさい。

【本市正答率】 13.4% [全国比▲6.0]

実験の環境を十分観察し、蒸発と湿度に関する知識を活用して、考えられる要因を見いだすことに課題がある。

## (4) 児童・生徒質問紙との関連

### 【児童・生徒質問紙の結果(%)】

(45) 授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか。

(50) 授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか。

	番号	本市	全国	全国比(H27)
小学校	(45)	53.4	54.5	▲1.1(▲2.5)
	(50)	67.6	68.1	▲0.5(+0.7)
中学校	(45)	37.6	41.4	▲3.8(▲2.2)
	(50)	55.4	59.0	▲3.6(+0.6)

(本市児童・生徒の「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」割合)

「(45) 授業での説明・発表」について、小・中学校どちらも全国を下回った。前回と比較すると小学校は1.0ポイント、中学校は1.4ポイント高いが、更なる改善が必要である。

「(50) 授業での振り返り」についても、小・中学校どちらも全国を下回っている。前回と比較すると、小・中学校のどちらも0.2ポイント低く、改善が必要である。

## (5) 授業改善のポイント

### ア 小・中学校共通

既習の知識や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想したり、自らの予想や仮説に基づいて検証計画を立案したりする活動を重視する。その際、自分の考えを説明したり発表したりする活動を位置付けるとともに、自らの予想や仮説、検証計画の妥当性について事実に基づいた考察を通して振り返らせるようにする。

### イ 小学校

上流側の天気と下流側の川の水位の関係性を見いだす設問のように、複数の情報を関係付けながら、多面的に分析して考察できるようにする。その際、「原因と結果」や「事実と考え」を区別しながら資料を読み取らせたり、結論と根拠を明確にして述べさせたりすることが大切である。また、太陽の位置の変化を光電池の置き方に生かすような、学んだことをものづくりへ適用する活動を重視する。

### ウ 中学校

植物を入れた容器内の湿度が高くなる原因を指摘する設問のように、対象を十分観察して問題を見いだしたり、予想や仮説を立てたりする活動を探究の過程に沿って位置付ける。また、光の反射を利用したテレプロンプターを扱うなど、習得した知識・技能を活用して探究する活動を単元末等に位置付けるようにする。

(6) 問題別調査結果

※ 空欄に貴校のデータを書き込み、全国や本市と比較してください。

**小学校 理科**

問題番号	出題の趣旨	枠組み		学習指導要領の区分等				評価の観点				正答率(%)			無解答率(%)			
		主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題	A区分		B区分		意欲・態度	自然科学への関心・科学的な思考・表現	観察・実験の技能	知識・理解	自然科学についての	本校	本市	全国	本校	本市	全国
				物質	エネルギー	生命	地球											
1 (1)	安全に留意し、生物を愛護する態度をもって、野鳥のひなを観察できる方法を構想できる		○				4B (2) ア		○				85.0	82.1		0.0	0.0	
1 (2)	調べた結果について考察する際に、問題に対応した視点で分析できる		○				4B (1) ア			○			74.2	76.2		0.0	0.1	
1 (3)	骨と骨のつなぎ目について、科学的な言葉や概念を理解している	○					4B (1) イ				○		85.8	79.4		2.3	3.8	
1 (4)	人の腕が曲がる仕組みを模型に適用できる		○				4B (1) アイ			○			57.0	56.6		0.4	0.4	
2 (1)	堆積作用について、科学的な言葉や概念を理解している	○					5B (3) ア				○		92.2	83.6		0.0	0.1	
2 (2)	土地の侵食について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる		○				5B (3) ア			○			54.1	55.4		0.2	0.3	
2 (3)	より妥当な考えをつくりだすために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できる		○				5B (3) ウ			○			17.9	20.1		0.9	1.0	
2 (4)	より妥当な考えをつくりだすために、複数の情報を関係付けながら、分析して考察できる		○				5B (3)ウ (4)アイ			○			55.8	59.8		0.2	0.3	
3 (1)	乾電池のつなぎ方を変えると電流の向きが変わることを実際の回路に適用できる		○				4A (3) ア			○			66.2	63.5		0.1	0.3	
3 (2)	電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる		○				4A (3) ア			○			48.0	47.7		0.4	0.5	
3 (3)	実験結果から電流の流れ方について、より妥当な考えに改善できる		○				4A (3) ア			○			60.4	59.4		0.5	0.6	
3 (4)	太陽の1日の位置の変化と光電池に生じる電流の変化の関係を目的に合ったものづくりに適用できる		○				4A (3) イ			○			38.2	41.9		0.4	0.6	
4 (1)	ろ過の適切な操作方法を身に付けている	○					5A (1) イ				○		69.1	71.1		0.4	0.5	
4 (2)	より妥当な考えをつくりだすために、2つの異なる方法の実験結果を分析して考察できる		○				5A (1) イウ			○			88.1	89.4		0.5	0.6	

4 (3)	物を水に溶かしても全体の重さは変わらないことを食塩を溶かして体積が増えた食塩水に適用できる	○	5A (1) ウ				○				38.4	42.7		1.0	1.3
4 (4)	実験結果から言えることだけに言及した内容に改善し、その内容を記述できる	○	4A (2)ウ 5A (1)イ ウ			4B (3) イ	○				36.5	35.9		6.1	8.9

中学校 理科

問題番号	出題の趣旨	枠組み		学習指導要領の分野等				評価の観点				正答率(%)			無解答率(%)			
		主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題	第1分野 物理的領域	第2分野 化学的領域	第2分野 生物的領域	第2分野 地学的領域	意欲・態度	自然事象への関心・科学的な思考・表現	観察・実験の技能	知識・理解	自然事象についての	本校	本市	全国	本校	本市	全国
1 (1)	光の反射の幾何光学的な規則性についての知識・技能を活用できる		○	(1) ア (7)							○			59.1	61.7		0.1	0.1
1 (2)	テレプロンプターのモデルの光の道筋を検討して改善し、適切な光の道筋を説明することができる		○	(1) ア (7)							○			73.6	73.7		0.1	0.2
2 (1)	無脊椎動物と軟体動物の体のつくりの特徴に関する知識を活用できる		○			(3) ウ (4)					○			84.6	86.2		0.1	0.1
2 (2) 低い濃度	濃度が異なる食塩水のうち、濃度の低いものを指摘できる	○			(2) イ (7)							○		75.6	76.5		1.1	1.2
2 (2) 3.0%の濃度	濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘できる	○			(2) イ (7)							○		50.5	46.9		1.2	1.3
2 (3)	「アサリが出した砂の質量は明るさに関係しているとはいえない」と考察した理由を指摘できる		○			(3) ウ (4)					○			79.7	79.7		0.0	0.2
2 (4)	1つの要因を変えるとその他にも変わる可能性のある要因を指摘できる		○			(3) ウ (4)					○			61.9	61.3		8.1	9.5
3 (1)	風向の観測方法や記録の仕方に関する知識・技能を活用できる		○			(4) ア (7)					○			37.1	37.5		0.1	0.2
3 (2)	太平洋高気圧（小笠原気団）の特徴についての知識を身に付けている	○				(4) ウ (7)						○		66.5	67.3		0.3	0.4
3 (3)	シミュレーションの結果について考察した内容を検討して改善し、台風の進路を決める条件を指摘できる		○			(4) ウ (7)					○			50.8	52.3		6.3	7.9
4 (1)	ガスバーナーの空気の量を調節する場所を指摘できる	○			(2) ア (7)							○		72.7	73.4		0.3	0.4
4 (2)	炎の色と金網に付くススの量を調べる実験を計画する際に、「変えない条件」を指摘できる		○		(4) イ (4)						○			43.2	44.1		14.7	15.5

4 (3)	化学変化を表したモデルを検討して改善し、原子や分子のモデルで説明できる		○		(4) イ (7)				○				55.4	49.4		13.4	16.2
5 (1)	神経系の働きについての知識を身に付けている	○			(3) イ (1)				○				63.5	57.2		5.5	7.1
5 (2)	反応の時間を測定する装置や操作を刺激と反応に対応させた実験を計画できる		○		(3) イ (1)				○				60.4	62.8		0.4	0.5
6 (1)	電流計は回路に直列に接続するという技能及び電流計の電気用図記号の知識を身に付けている	○			(3) ア (7)				○	○			72.7	70.5		0.3	0.4
6 (2) 電流	実験の結果を示した表から電流の値を読み取ることができる	○			(3) ア (7)				○				79.2	77.2		10.3	11.6
6 (2) 抵抗	オームの法則を使って、抵抗の値を求めることができる	○			(3) ア (1)					○			56.0	51.9		12.8	14.6
6 (3)	豆電球と豆電球型のLEDの点灯の様子と電力との関係を指摘できる		○		(3) ア (4)				○				91.9	91.4		0.6	0.6
7 (1)	地震の揺れの強さが震度であること、S波による揺れが主要動であることの知識を身に付けている	○				(2) ア (1)				○			55.3	55.1		0.5	0.4
7 (2)	緊急地震速報を受け取ってからS波による揺れが始まるまでの時間が最も長い観測地点を指摘できる		○			(2) ア (1)				○			78.5	78.5		0.7	0.5
7 (3)	初期微動継続時間の長さや震源からの距離の関係の知識と音の速さに関する知識を活用できる		○		(1) ア (4)		(2) ア (1)			○			94.3	94.4		3.5	3.6
8 (1)	アルミニウムの原子の記号の表し方についての知識を身に付けている	○			(4) ア (1)					○			86.0	83.5		0.6	0.6
8 (2)	発熱パックに入っているアルミニウムが水の温度変化に関係していることを指摘できる		○		(4) イ (4)					○			70.9	72.0		0.6	0.6
8 (3)	探究の過程を振り返り、新たな疑問をもち問題を見だし探究を深めようとしているアルミニウムは水の温度変化に関係していることについての新たな問題を見いだすことができる		○		(4) イ (4)				○	○			72.6	74.0		22.2	20.3
9 (1)	植物の葉などから水蒸気が出る働きが蒸散であるという知識を身に付けている	○			(1) イ (1)					○			86.0	88.0		0.7	0.6
9 (2)	植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できる		○			(4) ア (7)				○			13.4	19.4		20.9	21.4

## V 児童生徒及び学校に対する質問紙調査〈抜粋〉

児童生徒及び学校に対する質問から特徴的なものを抜粋しました。（単位は％）

1～27は児童生徒の回答、28～70は学校の回答になります。

※ 空欄に貴校のデータを書き込み（入力）し、全国や本市と比較してください。

- ・ 1～27については、貴校の割合（％）を、28～70は①～④等の回答を書き込み（入力）し、比較しましょう。（エクセルデータをSee-Smile（グループウェア）も配信します）
- ・ □の中に【分析・対策】を簡潔に書きましょう。（全て記入する必要なし〈対策の重点化〉）

### 【児童生徒に対する質問紙調査結果〈抜粋〉】

#### 家庭や社会への対応等に関すること

		本校	本市	全国
1	Q：家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話しますか。(H30.Q18) ※「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の割合	小学校	82.6	80.5
	◆「家の人に学校での出来事について話している」と回答した児童生徒の割合は、全国に比べ高い。	中学校	79.5	76.0
2	Q：地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか。(H30.Q23) ※「参加したことがある」と回答した児童生徒の割合	小学校	53.4	36.1
	◆「地域社会などでボランティア活動に参加した」と回答した児童生徒の割合は、全国に比べ高い。	中学校	64.4	51.8
3	Q：地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますか。(H30.Q21) ※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小学校	64.8	63.8
	◆「地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある」と回答した児童の割合は、全国と比べやや高いが、生徒の割合はやや低い。	中学校	58.7	59.3
4	Q：地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。(H30.Q22) ※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小学校	49.0	49.9
	◆「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」と回答した児童の割合は、全国に比べやや低く、生徒の割合は低い。	中学校	35.0	38.7

【分析・対策】(例:ボランティアに参加する児童の割合が全国・市に比べ低い。児童や家庭に向け、地域で参加できるボランティアの紹介を行う。)

#### 自尊感情について

		本校	本市	全国
5	Q：自分には、よいところがあると思いますか。(H30.Q1) ※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小学校	83.2	84.0
	◆「自分には、よいところがあると思う」と回答した児童の割合は全国に比べやや低い、生徒の割合はやや高い。	中学校	80.2	78.8
6	Q：先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。(H30.Q2) ※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小学校	80.8	85.3
	◆「先生は、よいところを認めてくれている」と思う児童生徒の割合は、全国に比べ低い。	中学校	80.0	82.2

		本校	本市	全国
7	Q：将来の夢や目標を持っていますか。(H30. Q3) ※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小学校	87.8	85.1
	◆「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合は、全国に比べ高い。	中学校	74.3	72.4

【分析・対策】

## 規範意識について

		本校	本市	全国
8	Q：学校のきまり（規則）を守っていますか。(H30. Q4) ※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小学校	89.4	89.5
	◆「学校のきまりを守っている」と回答した児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。	中学校	95.1	95.1

		本校	本市	全国
9	Q：いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。(H30. Q5) ※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小学校	96.5	96.8
	◆「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した児童の割合は、全国とほぼ同じであるが、生徒の割合はやや高い。	中学校	96.8	95.5

		本校	本市	全国
10	Q：人の役に立つ人間になりたいと思いますか。(H30. Q6) ※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合	小学校	95.2	95.2
	◆「人の役に立つ人間になりたいと思う」と回答した児童の割合は、全国と同じであるが、生徒の割合はやや高い。	中学校	95.5	94.9

【分析・対策】

## 生活習慣について

		本校	本市	全国
11	Q：朝食を毎日食べていますか。(H30. Q7) ※「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の割合	小学校	93.8	94.5
	◆「朝食を毎日食べている」と回答した児童の割合は、全国に比べやや低いが、生徒の割合はやや高い。	中学校	93.3	91.9

		本校	本市	全国
12	Q：毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。(H30. Q8) ※「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の割合	小学校	75.0	77.0
	◆「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」と回答した児童の割合は、全国に比べ低いが、生徒の割合は高い。	中学校	76.4	74.2

		本校	本市	全国
13	Q：毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。(H30. Q9) ※「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の割合	小学校	87.8	88.8
	◆「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と回答した児童の割合は、全国に比べやや低いが、生徒の割合は高い。	中学校	91.8	90.3

【分析・対策】

## 学習習慣について

		本校	本市	全国
14	Q：家で、自分で計画を立てて勉強していますか。(H30.Q10) ※「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の割合  ◆「家で、自分で計画を立てて勉強している」と回答した児童生徒の割合は、全国に比べ低い。	小学校	64.9	67.6
		中学校	50.5	52.1
		本校	本市	全国
15	Q：家で、学校の宿題をしていますか。(H30.Q11) ※「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の割合  ◆「家で、学校の宿題をしている」と回答した児童の割合は、全国に比べやや高く、生徒の割合は高い。	小学校	97.8	97.1
		中学校	95.5	91.6
		本校	本市	全国
16	Q：家で、学校の授業の予習・復習をしていますか。(H30.Q12) ※「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の割合  ◆「家で、学校の授業の予習・復習をしている」と回答した児童生徒の割合は、全国に比べ高い。	小学校	65.7	62.6
		中学校	60.1	55.2
		本校	本市	全国
17	Q：家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか。(H30.Q13) ※「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の割合  ◆「家で、予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習している」と回答した児童生徒の割合は、全国に比べ高い。	小学校	78.7	69.9
		中学校	73.5	71.3

【分析・対策】

## 言語活動等について

		本校	本市	全国
18	Q：授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいたと思いますか。(H30.小Q55、中Q52) ※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合  ◆「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいる」と回答した児童生徒の割合は、全国に比べやや低い。	小学校	76.0	76.7
		中学校	73.3	73.8
		本校	本市	全国
19	Q：授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか。(H30.小Q56、中Q53) ※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合  ◆「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」と回答した児童生徒の割合は、全国に比べ低い。	小学校	57.1	61.0
		中学校	47.1	53.8
		本校	本市	全国
20	Q：学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。(H30.小Q57、中Q54) ※「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した児童生徒の割合  ◆「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した児童の割合は、全国に比べやや高く、生徒の割合は高い。	小学校	78.3	77.7
		中学校	78.1	76.3

【分析・対策】

## 家庭学習等に関すること

		本校	本市	全国
21	Q：学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師含む）。(H30.Q14) ※1時間以上勉強している児童生徒の割合  ◆「学校の授業以外に、1日あたり1時間以上勉強する」と回答している児童生徒の割合は、全国に比べ高い。	小学校	73.2	66.2
		中学校	79.2	70.6

		本校	本市	全国
22	Q：学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。(H30.Q15) ※30分以上している児童生徒の割合  ◆「読書を1日あたり30分以上する」と回答している児童生徒の割合は、全国に比べ高い。	小学校	44.8	41.1
		中学校	38.6	30.9

【分析・対策】

## 新聞等に関すること

		本校	本市	全国
23	Q：新聞を読んでいますか。(H30.Q25) ※週に1～3回以上読んでいる児童生徒の割合  ◆「新聞を週1～3回以上読む」と回答した児童生徒の割合は、全国に比べ低い。	小学校	17.3	19.9
		中学校	11.9	13.9

		本校	本市	全国
24	Q：テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか（携帯やスマホを使ってニュースを見ることも含む）。(H30.Q26) ※「よく見る」「時々見る」と回答した児童生徒の割合  ◆「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る」と回答した児童生徒の割合は、全国に比べ高い。	小学校	88.5	86.2
		中学校	89.0	86.6

【分析・対策】

## 授業の好き嫌い等に関すること

		本校	本市	全国	
25	Q：算数・数学、理科の勉強は好きですか。(H30.小算Q27、小理Q38、中数Q27、中理Q38) ※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合  ◆「算数・数学を好き」と回答した児童生徒の割合は、全国に比べ高い。「理科を好き」と回答した児童の割合は、全国に比べやや低いが、生徒の割合は高い。	算数・数学	小学校	70.9	64.0
			中学校	55.5	53.9
		理科	小学校	82.7	83.5
			中学校	66.5	62.9

		本校	本市	全国	
26	Q：算数・数学、理科の勉強は大切だと思いますか。(H30.小算Q28、小理Q39、中数Q28、中理Q39) ※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合  ◆「算数の勉強が大切」と回答した児童の割合は、全国と同じであるが、「数学の勉強が大切」と回答した生徒の割合は高い。「理科の勉強が大切」と回答した児童の割合は、全国に比べ低いが、生徒の割合は高い。	算数・数学	小学校	92.1	92.1
			中学校	86.8	83.6
		理科	小学校	83.7	85.4
			中学校	72.9	70.6

		本校	本市	全国	
27	<p>Q：国語・算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。(H30. 小算Q33、小理Q43、中数Q33、中理Q43) ※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合</p> <p>◆「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」と回答した児童の割合は、小学校算数・理科については全国に比べやや低い。中学校数学については高いが、中学校理科についてはほぼ同じである。</p>	算数・数学	小学校	89.2	90.3
			中学校	75.6	72.9
		理科	小学校	71.5	72.9
			中学校	55.9	55.7

【分析・対策】

## 【学校質問紙調査結果〈抜粋〉】

### 授業でのICT活用に関すること

		本校	本市	全国
28	<p>Q：教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板等）等のICTを活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか。(H30. 小Q28、中Q27) ※「週に1回以上行った」と回答した学校の割合</p> <p>◆「教員がICTを活用した授業を週1回以上行った」と回答した学校の割合は、全国に比べ高い。</p>	小学校	96.0	73.0
		中学校	82.0	74.8
29	<p>Q：児童生徒がコンピュータ等のICTを活用する学習活動を1クラス当たりどの程度行いましたか。(H30. 小Q29、中Q28) ※「週に1回以上行った」と回答した学校の割合</p> <p>◆「児童生徒がICTを活用する学習活動を週1回以上行った」と回答した学校の割合は、全国に比べ高い。</p>	小学校	63.2	36.6
		中学校	51.3	33.5

【分析・対策】

### 児童生徒の状況について

		本校	本市	全国
30	<p>Q：児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていますか。(H30. Q12) ※「そのとおりだと思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した学校の割合</p> <p>◆「授業中の私語が少なく落ち着いている」と回答した小学校の割合は、全国に比べ低い、中学校の割合は高い。</p>	小学校	85.5	89.4
		中学校	97.5	94.6
31	<p>Q：児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができているか。(H30. Q13) ※「そのとおりだと思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した学校の割合</p> <p>◆「授業で課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている」と回答した小学校の割合は、全国に比べ低い、中学校の割合はやや高い。</p>	小学校	81.6	83.6
		中学校	82.0	80.8

【分析・対策】

## 学力向上に向けた取組・指導方法

		本校	本市	全国
32	Q：習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか。(H30.小Q22、中Q21) ※「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	小学校	98.7	93.0
	◆「習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をした」と回答した学校の割合は、全国に比べ高い。	中学校	94.9	92.6
		本校	本市	全国
33	Q：児童生徒に将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか。(H30.小Q23、中Q22) ※「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	小学校	90.8	83.3
	◆「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした」と回答した学校の割合は、全国に比べ高い。	中学校	100.0	98.6
		本校	本市	全国
34	Q：児童生徒に対して、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか。(H30.小Q24、中Q23) ※「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	小学校	94.7	96.5
	◆「学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えた」と回答した学校の割合は、全国に比べ低い。	中学校	89.7	95.0
		本校	本市	全国
35	Q：学習規律（私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かった話をする、始業開始のチャイムを守るなど）の維持を徹底しましたか。(H30.小Q25、中Q24) ※「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	小学校	100.0	97.7
	◆「学習規律の維持を徹底した」と回答した学校の割合は、全国に比べ高い。	中学校	100.0	98.3
		本校	本市	全国
36	Q：各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか。(H30.小Q26、中Q25) ※「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	小学校	90.7	89.7
	◆「各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた」と回答した小学校の割合は、全国に比べやや高く、中学校の割合は高い。	中学校	87.2	83.6
		本校	本市	全国
37	Q：教科等の指導に当たって、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか。(H30.小Q27、中Q26) ※「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	小学校	81.6	85.1
	◆「教科等の指導に当たって、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱った」と回答した学校の割合は、全国に比べ低い。	中学校	76.9	81.7
		本校	本市	全国
38	Q：学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け、評価する（褒めるなど）取組をどの程度行いましたか。(H30.小Q30、中Q29) ※「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	小学校	97.4	99.0
	◆「児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け、評価する取組を行った」と回答した小学校の割合は、全国に比べ低い、中学校の割合は高い。	中学校	100.0	97.9

【分析・対策】

## 家庭学習について

		本校	本市	全国
39	Q：保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか。(国語／算数・数学共通)(H30.小Q63、中Q60) ※「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	小学校	98.6	97.2
	◆「保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行った」と回答した小学校の割合は、全国に比べやや高く、中学校の割合は高い。	中学校	94.9	91.9

		本校	本市	全国
40	Q：家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか。 (国語／算数・数学共通) (H30.小Q64、中Q61) ※「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	小学校	92.1	91.6
	◆「家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図った」と回答した小学校の割合は、全国に比べやや高く、中学校の割合は高い。	中学校	92.3	87.1

		本校	本市	全国
41	Q：家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか。 (国語／算数・数学共通) (H30.小Q65、中Q62) ※「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	小学校	94.7	84.4
	◆「家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えた」と回答した小学校の割合は、全国に比べ高いが、中学校の割合は低い。	中学校	61.5	73.7

		本校	本市	全国
42	Q：家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしましたか(国語／算数・数学共通) (H30.小Q66、中Q63) ※「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	小学校	94.8	93.3
	◆「家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えた」と回答した学校の割合は、全国に比べ高い。	中学校	94.9	90.2

【分析・対策】

### 個に応じた指導について

		本校	本市	全国
43	Q：算数・数学の授業において、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか(H30.小Q35、中Q34) ※「年間の3/4以上で行った」「年間の1/2以上行った」と回答した学校の割合	小学校	61.8	35.2
	◆「習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにした」と回答した学校の割合は、全国に比べ高い。	中学校	30.8	28.6

		本校	本市	全国
44	Q：算数・数学の授業において、習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱いましたか。(H30.小Q36、中Q35) ※「年間の3/4以上で行った」「年間の1/2以上行った」と回答した学校の割合	小学校	51.3	25.7
	◆「習熟の早いグループに対して少人数による指導を行い、発展的な内容を扱った」と回答した小学校の割合は、全国に比べ高いが、中学校の割合は低い。	中学校	20.6	22.9

【分析・対策】

### 教員研修・教職員の取組について

		本校	本市	全国
45	Q：指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか。(H30.小Q16、中Q15) ※「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した学校の割合	小学校	97.3	94.7
	◆「指導計画の作成に当たって、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列した」と回答した学校の割合は、全国に比べ高い。	中学校	92.3	90.2

		本校	本市	全国
46	Q：教育課程表(全体計画や年間指導計画等)について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか。(H30.小Q17、中Q16) ※「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した学校の割合	小学校	97.4	93.2
	◆「教育課程表について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成した」と回答した小学校の割合は、全国に比べ高いが、中学校の割合は低い。	中学校	87.2	88.7

		本校	本市	全国
47	<p>Q：児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。(H30.小Q18、中Q17) ※「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した学校の割合</p> <p>◆「児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している」と回答した学校の割合は、全国に比べ低い。</p>	小学校	92.1	94.9
		中学校	89.7	93.1
48	<p>Q：指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか。(H30.小Q19、中Q18) ※「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した学校の割合</p> <p>◆「指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている」と回答した小学校の割合は、全国に比べ高いが、中学校の割合は低い。</p>	小学校	98.6	96.0
		中学校	64.1	84.6
49	<p>Q：教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか。(H30.小Q20、中Q19) ※「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した学校の割合</p> <p>◆「教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っている」と回答した学校の割合は、全国に比べ低い。</p>	小学校	88.1	90.6
		中学校	76.9	85.2
50	<p>Q：近隣等の小中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか。(H30.小Q21、中Q20) ※「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合</p> <p>◆「近隣等の小中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組をしている」と回答した学校の割合は、全国に比べ低い。</p>	小学校	60.5	63.1
		中学校	53.8	69.2
51	<p>Q：校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っていますか。(H30.小Q72、中Q69) ※「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した学校の割合</p> <p>◆「校長のリーダーシップのもと、研修リーダー等を校内に設け、校内研修の実施計画を整備するなど、組織的、継続的な研修を行っている」と回答した小学校の割合は、全国に比べ低いが、中学校の割合は高い。</p>	小学校	97.4	99.3
		中学校	100.0	98.1
52	<p>Q：学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか。(H30.小Q73、中Q70) ※「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した学校の割合</p> <p>◆「学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修をしている」と回答した学校の割合は、全国に比べ高い。</p>	小学校	98.6	94.0
		中学校	94.8	88.5
53	<p>Q：模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか。(H30.小Q74、中Q71) ※「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した学校の割合</p> <p>◆「模擬授業や事例研究など、実践的な研修をしている」と回答した小学校の割合は、全国に比べやや高いが、中学校の割合は低い。</p>	小学校	97.4	96.7
		中学校	87.2	90.9
54	<p>Q：教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしていますか。(H30.小Q75、中Q72) ※「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した学校の割合</p> <p>◆「教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしている」と回答した小学校の割合は、全国に比べやや高いが、中学校の割合はやや低い。</p>	小学校	98.7	97.4
		中学校	94.9	95.5
55	<p>Q：個々の教員が、自らの専門性を高めていこうとしている教科・領域等を決めており、校外の教員同士の授業研究の場に定期的・継続的に参加していますか。(H30.小Q76、中Q73) ※「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した学校の割合</p> <p>◆「個々の教員が、自らの専門性を高めていこうとしている教科・領域等を決めており、校外の教員同士の授業研究の場に定期的・継続的に参加している」と回答した学校の割合は、全国に比べ低い。</p>	小学校	78.9	87.2
		中学校	69.2	82.9

		本校	本市	全国
56	Q：近隣等の小中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか。(H30.小Q77、中Q74) ※「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	小学校	68.4	69.5
	◆「近隣等の小中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行った」と回答した小学校の割合は、全国に比べやや低く、中学校の割合は低い。	中学校	74.3	76.5

		本校	本市	全国
57	Q：教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか。(H30.小Q78、中Q75) ※「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した学校の割合	小学校	94.7	96.9
	◆「教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている」と回答した学校の割合は、全国に比べ低い。	中学校	77.0	93.9

		本校	本市	全国
58	Q：学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、教職員同士が協力し合っていますか。(H30.小Q79、中Q76) ※「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した学校の割合	小学校	97.4	97.5
	◆「学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、教職員同士が協力し合っている」と回答した小学校の割合は、全国とほぼ同じであるが、中学校の割合は高い。	中学校	97.4	95.6

		本校	本市	全国
59	Q：学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか。(H30.小Q80、中Q77) ※「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した学校の割合	小学校	93.4	93.1
	◆「学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしている」と回答した小学校の割合は、全国とほぼ同じであるが、中学校の割合はやや高い。	中学校	87.2	86.0

		本校	本市	全国
60	Q：言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか。(H30.小Q81、中Q78) ※「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した学校の割合	小学校	96.0	94.2
	◆「言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいる」と回答した小学校の割合は、全国に比べ高いが、中学校の割合は低い。	中学校	87.2	90.7

		本校	本市	全国
61	Q：学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか。(H30.小Q82、中Q79) ※「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した学校の割合	小学校	98.7	98.5
	◆「学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいる」と回答した小学校の割合は、全国とほぼ同じであるが、中学校の割合は低い。	中学校	89.7	96.9

		本校	本市	全国
62	Q：学校として業務改善に取り組んでいますか。(H30.小Q83、中Q80) ※「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した学校の割合	小学校	98.7	97.4
	◆「業務改善に取り組んでいる」と回答した学校の割合は、全国に比べやや高い。	中学校	97.4	96.8

【分析・対策】

### 地域の人材・施設の活用について

		本校	本市	全国
63	Q：地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか。(H30.小Q53、中Q51) ※「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	小学校	84.2	83.4
	◆「地域の人材を外部講師として招聘した授業を行った」と回答した小学校の割合は、全国に比べやや高いが、中学校の割合は低い。	中学校	43.6	70.1

		本校	本市	全国
64	Q：ボランティア等による授業サポート（補助）を行いましたか。 (H30.小Q54、中Q52) ※「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	小学校	67.1	49.2
	◆「ボランティア等による授業サポートを行った」と回答した小学校の割合は、全国に比べ高いが、中学校の割合は低い。	中学校	15.4	33.0

		本校	本市	全国
65	Q：博物館や科学館、図書館を利用した授業を行いましたか。(H30.小Q55、中Q53) ※「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	小学校	38.1	49.0
	◆「博物館や科学館、図書館を利用した授業を行った」と回答した小学校の割合は、全国に比べ低い、中学校の割合はほぼ同じである。	中学校	25.6	25.9

		本校	本市	全国
66	Q：授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定を行いましたか。(H30.小Q57、中Q55) ※「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	小学校	84.2	86.2
	◆「授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定を行った」と回答した学校の割合は、全国に比べ低い。	中学校	66.7	79.8

【分析・対策】

### 調査結果の活用について

		本校	本市	全国
67	Q：平成29年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。 (H30.小Q31、中Q30) ※「よく行った」「行った」と回答した学校の割合	小学校	98.7	97.6
	◆「全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した」と回答した小学校の割合は、全国に比べやや高く、中学校の割合は高い。	中学校	100.0	96.1

		本校	本市	全国
68	Q：平成29年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか（学校のHPや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む）。(H30.小Q32、中Q31) ※「よく行った」「行った」と回答した学校の割合	小学校	100.0	92.3
	◆「全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行った」と回答した学校の割合は、全国に比べ高い。	中学校	97.4	88.5

		本校	本市	全国
69	Q：全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか。 (H30.小Q33、中Q32) ※「よく行っている」「どちらかといえば、行っている」と回答した学校の割合	小学校	97.3	94.4
	◆「全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行った」と回答した学校の割合は、全国に比べ高い。	中学校	100.0	91.8

		本校	本市	全国
70	Q：平成29年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有しましたか。(H30.小Q34、中Q33) ※「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	小学校	51.3	63.3
	◆「全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有した」と回答した学校の割合は、全国に比べ低い。	中学校	35.9	64.0

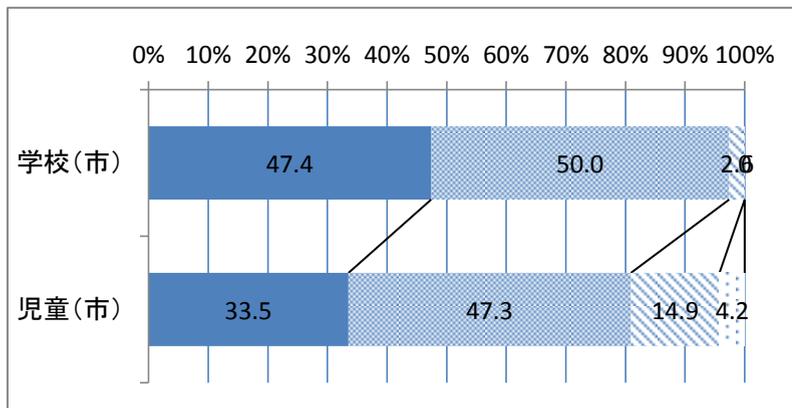
【分析・対策】

## VI 児童生徒への質問の結果(児童生徒質問紙)と学校の取組(学校質問紙)との関係

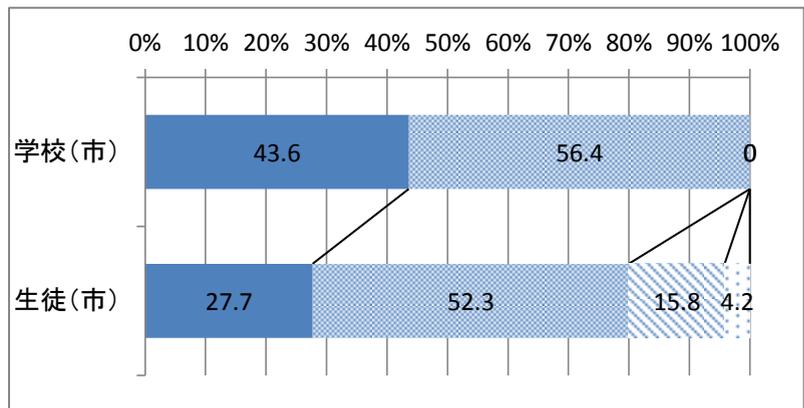
児童生徒への質問の結果と学校の取組を比較したところ、両者の意識にずれのある項目が見られた。

質問番号		質問項目
学校	小30 中29	児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組をどの程度行いましたか
児童生徒	小2 中2	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

【小学校】



【中学校】

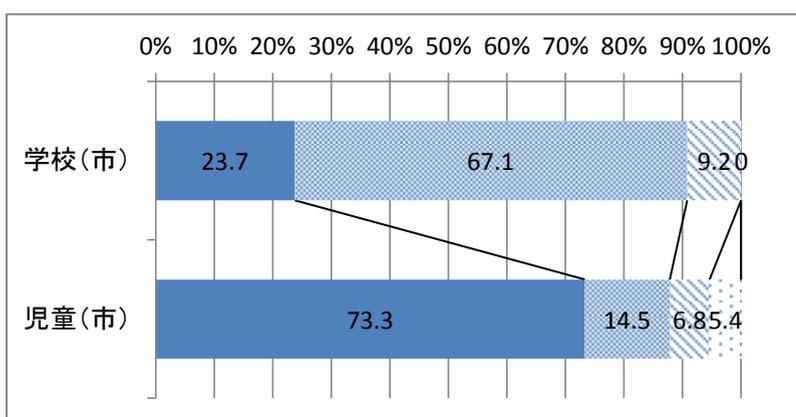


■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

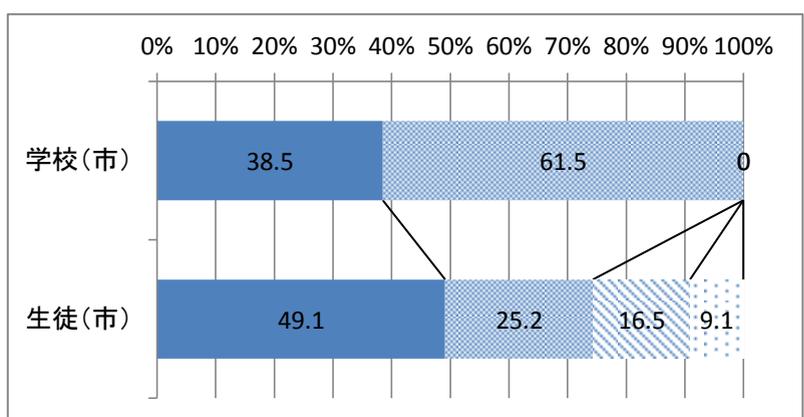
「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童は80.8%、生徒は80.0%である。中学校ではほぼ全ての中学校で生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する(褒めるなど)取組が行われているにも関わらず、20.0%の生徒が「よいところを認めてもらっていない」と感じている。

質問番号		質問項目
学校	小23 中22	児童生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか
児童生徒	小3 中3	将来の夢や目標を持っていますか

【小学校】



【中学校】

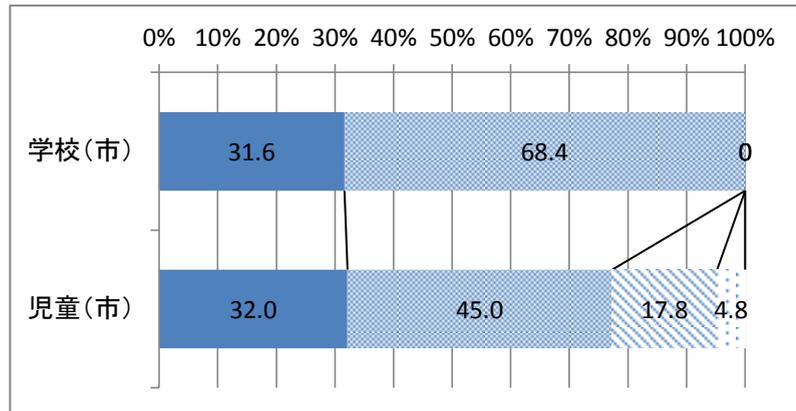


■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童は87.8%、生徒は74.3%である。中学校において、20%以上の生徒が、「将来の夢や目標を持っていない」と回答している。

質問番号		質問項目
学校	小4 2	児童に対する理科の授業において、前年度に、児童の好奇心や意欲が喚起されるよう、工夫していましたか
児童	小5 3	理科の授業を受けた後に、習ったことに関わることで、もっと知りたいことができましたか

【小学校】

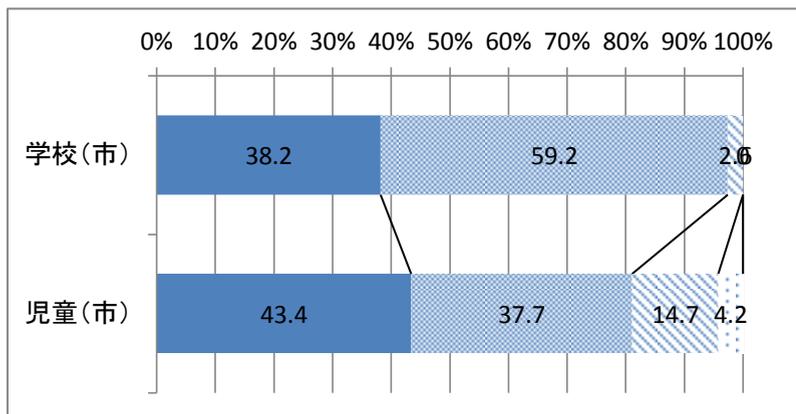


■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

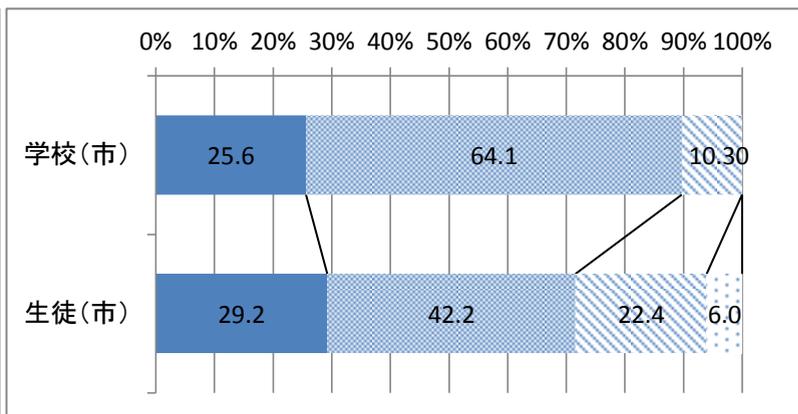
「理科の授業を受けた後に、習ったことに関わることで、もっと知りたいことができた」と回答した児童は77.0%である。ほぼ全ての小学校で、理科の授業において、児童の好奇心や意欲が喚起されるよう工夫しているが、22.6%の児童が興味関心がもてていない状況が見られる。

質問番号		質問項目
学校	小4 8 中4 6	児童生徒に対する理科の指導として、前年度までに、観察や実験の結果を整理し考察する（分析し解釈する）指導を行いましたか
児童生徒	小4 9 中4 9	理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか（考察していますか）

【小学校】



【中学校】



■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

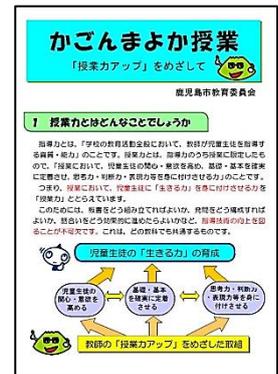
「理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えている（考察している）」と回答した児童は81.1%、生徒は71.4%である。ほぼ全ての小学校で、理科の授業において、観察や実験の結果を整理し考察する指導が行われているが、18.9%の児童が観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていない状況が見られる。

## Ⅶ 学力向上について

### 1 かごんまよか授業 「授業力アップ」をめざして

- 市教育委員会では、授業力向上の共通の指針として作成した「かごんまよか授業」の活用を進めている。全教職員の間で共有を図るとともに校内研修等で活用することは効果的である。

See-Smile (グループウェア) > 様式集 > 学校教育課 > 学習指導の充実 > かごんまよか授業・授業分析シート



### 2 KEIネット (鹿児島市教育情報ネットワークシステム)

- 学習情報センターを中核とし、センターと各学校を結んだ教育用ネットワークである。ネットワーク内では、デジタル教科書や授業動画などの様々なデジタルコンテンツを利用することができる。  
また、ICTを活用した授業や機器操作等のマニュアル動画を配信している。

#### 【KEIネットデジタルコンテンツトップ画面】

(<http://www.keinet.local/>)

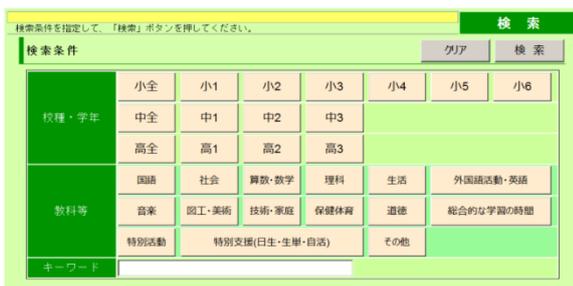


学校 (教師用コンピュータ等) から、左のサイト (通常はインターネットのトップページに設定) にアクセスして視聴できます。

#### 【プログラミング教材】



#### 【デジタルコンテンツ検索】



#### 【授業動画】



#### 【ICT活用 実践事例】



#### 【「かごんまよか授業」動画】



### 3 その他

- 鹿児島県学力向上支援 WEB システム  
(各学校にお知らせしてある専用の I D とパスワードが必要です)  
<https://www.gkshien.jp/admin/login-sc> (ID・PW 画面)
  
- 鹿児島県 「学びの羅針盤・授業改善のポイント」  
<https://www.pref.kagoshima.jp/ba04/kyoiku-bunka/school/rasinban.html>
  
- 鹿児島県総合教育センター 「指導資料」  
<http://www.edu.pref.kagoshima.jp/research/result/siryu/top.html>
  
- 鹿児島県総合教育センター 「学習指導案」  
<http://www.edu.pref.kagoshima.jp/research/cooperation/top.html>
  
- 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 「全国学力・学習状況調査」  
<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>